

501
16



始



1265-100

501-16



小說第一
次世界大戰未來記

樋口麗陽著

□ 日米戰爭未來記續篇

大正
10 3.24
內交

第二次世界大戦未来記

目次

目次	次
一 果然、平和は一時的であつた	一
二 何故平和は一時的であつたか	五
三 滿々たる濠洲の不平不満	六
四 辛辣未曾有の迫害凌辱	一一
五 日本朝鮮の沸騰	一五
六 列國の義憤、非難濠洲に集注す	一八
七 奇怪！奇怪！濠洲の態度一變	二二
八 突として出現せる日米商會	二三
九 驚嘆すべき大計畫と大活躍	二九
一〇 戦慄すべき日米商會の大陰謀	三三

一一 國際聯盟瓦解の第一歩……………三五

一二 英佛米濠の横暴……………三七

一三 形勢急轉直下……………四〇

一四 軍事探偵團の活躍……………四二

一五 ゼノア湖畔の大會議……………四四

一六 支那始めて目醒む……………四六

一七 國際聯盟瓦解、二大同盟の對立……………五三

一八 日本參謀本部の機密書類何者にか盡み去らる……………五五

一九 人種戰の氣運動く……………五六

二〇 有色人種の大團結成る……………六二

二一 米國の日本側同盟切崩し陰謀……………六三

二二 果然、日本側同盟動搖す……………六六

二三 英米佛濠の奸策無效に歸す……………七一

二四 米國に於ける日本人大排斥……………七二

二五 機密書類事件迷宮に入る……………七三

二六 參謀本部に又もや大椿事出來……………八三

二七 機密書類係長官の自殺事件……………八八

二八 重大迷宮事件の奇怪なる解決……………九〇

二九 參謀本部廓清の輿論……………九七

三〇 米國新聞の記事日本國民を震撼せしむ……………九九

三一 驚くべき透視鏡の發明……………一〇五

三二 不思議なる透視鏡の作用……………一〇七

三三 發明者は泥棒志願の一青年……………一一一

三四 透視鏡發明の動機……………一二三

三五 十有五年間の苦心研究……………一二六

三六 全世界の富は今や我が手中に在り……………一三六

五〇 米探三博士上海に急行す……………一八九

五一 太平洋の眞只中で發動機に故障……………一九三

五二 三博士無事到着……………一九五

五三 ジョンソン本國に急行す……………一九六

五四 紐育上海相呼應す……………一九七

五五 日本製品關稅引下げ運動の魂膽……………一九九

五六 米國電信博士の無限自動送機の大發明……………二〇五

五七 日本官民ジョンソン一派の計略に欺かる……………二一〇

五八 日本の官民悉く翻弄さる……………二二三

五九 自殺少將の愛兒亡父の爲め奮然として起つ……………二二七

六〇 朝川搜索隊の苦心、失望……………二二三

六一 自殺少將の遺子遂に機密書類の所在を突止む……………二三八

六二 少年探偵の苦心水泡に歸せんとす……………二四四

三七 日本帝國の危殆、朝川龜一の心機一轉……………二四二

三八 朝川青年の疾風の行動……………二四六

三九 參謀本部の士氣復活す……………二四八

四〇 博士邸内實驗室の祕密作業……………二五二

四一 長距離透視鏡の完成……………二五五

四二 愛國家の献身的活動……………二五五

四三 日米商會は實は米探の機關……………二六〇

四四 巧妙眞に驚くべき日本人米探化手段……………二六四

四五 機密書類行方不明の眞相……………二六九

四六 日米商會監督の暗中活躍……………二七五

四七 日米商會神戸支店の家宅搜索……………二七九

四八 米探ジョンソン上海活躍……………二八四

四九 上海支店樓上の祕密研究……………二八七

六三	暗示に一道の光明を認む.....	二四九
六四	果然、空中軍艦見ゆ！.....	二五一
六五	空中軍艦に救助さる.....	二五三
六六	日米商會神戸支店の透視捜査.....	二六〇
六七	策を弄して遂に失敗す.....	二六二
六八	米探團の一網打盡的檢舉大方針成る.....	二六五
六九	危機一髪、萬事休せんとす.....	二六七
七〇	機密書類既に國外に運び去らる.....	二七一
七一	太平洋上より怪物飛行の無線電信.....	二七二
七二	米國の内亂勃發.....	二七六
七三	米國の過半修羅場と化す.....	二八四
七四	墨國民の黒人援助.....	二八六
七五	米墨遂に開戦す.....	二九〇

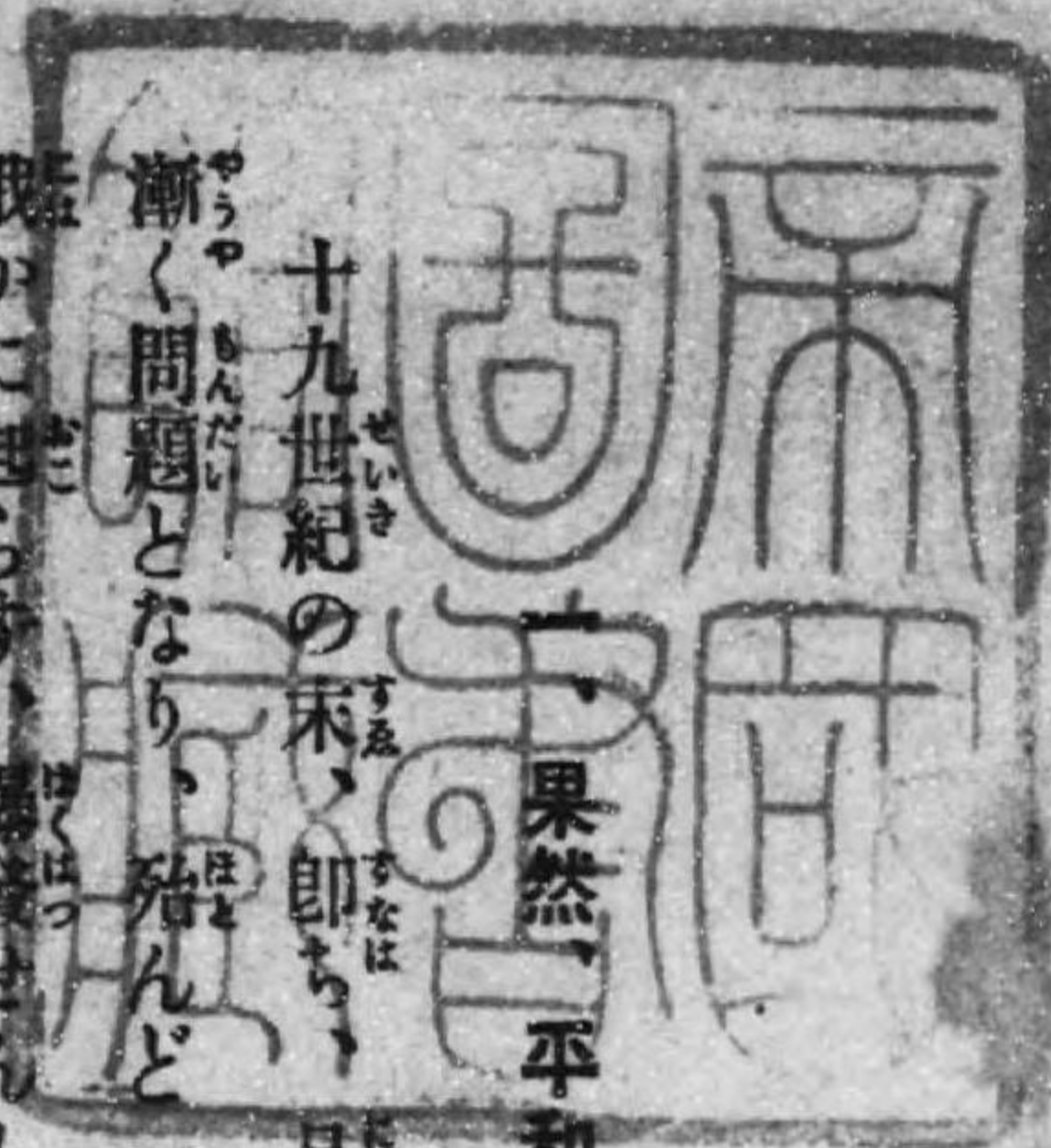
七六	痛快なる米墨國境の邀撃戦.....	二九〇
七七	南米諸國の大恐慌.....	二九四
七八	南米諸國の躍氣運動.....	二九八
七九	中米南米一齊に蹶起す.....	三〇〇
八〇	英佛濠亦た戦氣動く.....	三〇一
八一	最終の目的は日本の解體.....	三〇五
八二	日本側同盟國の戦備.....	三〇九
八三	日本の致命傷的重大事件.....	三二〇
八四	日本の致命傷的重大事件と透視鏡の大偉力.....	三二二
八五	日本遂に参戦す.....	三二四
八六	世界の識者の觀測悉く裏切らる.....	三二五
八七	英佛の驚憂.....	三二七
八八	日本参戦の理由.....	三三〇

八九	日本空中艦隊の米國襲撃……………	三二六
九〇	果然米國には必勝の成算があつた……………	三三〇
九一	米國側同盟諸國の一齊宣戰……………	三三一
九二	全世界遂に戦亂の巷と化す……………	三三三
九三	米國發明家の恐るべき大發明……………	三三六
九四	全世界血の海と化す……………	三三九
九五	勝敗如何……………	三四〇

目次終

小説 第二次世界大戰未來記

樋口麗陽 著



果然、平和は一時的であつた

十九世紀の末、即ち日本が新興國として世界國際間に聳だつに至つた頃より漸く問題となり、殆んど二世紀の間燃えんとして、容易に燃えす、起らんとして俄かに起らず、爆發せんとして而も猶未だ爆發しなかつた日米戦争が、俄然二十世紀の終末に於て爆發し、或は樂觀し或は憂悞しつゝあつた世界列國を愕然たらしめ、千九百十四年に勃發した世界戦以上の科學的戦争であつたにも拘はらず、

果然、平和は一時的であつた

又た支那參戰し、墨國蹶起し、濠太刺亞共和國亦米國側に起ち、漸く世界戰的形勢となつたにも拘はらず、僅に數箇月交戦したのみで、早くも形勢は急轉直下し中立諸國の團結的講和提議となり、遂に勿々として平和克復となり、一切合切龍頭蛇尾、頗る平凡に頗る意外なる終局を告げ、世界の好奇者流をして妙なからず失望落膽せしめた事實の一切は、既に日米戰爭未來記が語つて居る通りである。而も其の當時、日米兩國共、官民間に議論沸騰して非常の喧囂を極め、講和反對者は、是れ所詮一時的平和に過ぎない、而も一時的平和によつて將來より重大なる困難を招徠しより慘憺たる戰爭を醸成するは絶対に賛成することが出来ないといふ力説し、極力講和反對を主張した、殊に米國新聞界の論調は殆んど悉く主戰的で、此の千載一遇の絶好機會に於て日本を徹底的に征服し根本的に崩壊せしめて將來の大禍根を絶滅し置くにあらざれば、早晚更に第二第三の日米戰爭は到底

絶対に回避すべからざる必然事である、而も其時、米國は零敗と屈辱以外何物をも得る事能はざるべきは、今日既に明々であり白々である、我政府は速かに直ちに中立國團の講和提議を拒絶し、日本が絶對無條件降服を日本自ら誠意を以て提議し來る迄は戰爭を繼續し絶對に講和問題の討議を考慮せざるべきを宣言すべし若し政府者にして其勇なく必勝の成算なくんば政府の責任者は直ちに悉く辭職せよ、我米國民は此の問題に對する政府の態度如何によりて政府を改造すべきや否やの問題を決定するを要すと、大膽にして露骨、傲慢にして強硬なる反對論を高調したのであつた。

然るに平和克復後に於ける事實は、米國諸新聞が一齊に絶叫した推斷の如く、又た日米識者階級に於ける講和反對論者の論じたるが如く、此時に於ける日米間の平和克復は、遂に所謂一時的平和克復に過ぎなかつた。平和とは云ふものゝ、

果然、平和は一時的であつた

其の平和は表面的平和であり、外面的平和であり、國際辭令的平和であつて、裏面に於ては依然として、否、より一層濃厚にして危険なる戦雲は、暗愴として日米國際の上に漲つて居たが、それから約二十年の後、即ち、二十一世紀の初頭に於て、遂に平和は爆然として再び破れた。即ち戦慄すべき世界脅威の日米再戦の大慘劇の幕は切つて落され、其場面は急速に展開し、日米兩國は再び各々其國力の一切を提げて戦争に従事し、鮮血と死屍と肉弾とを以て、國家國民の興亡的運命を決定すべく餘儀なくされた。而して此の日米再戦は、國際聯盟崩壊分裂の端を開き、世界は二大同盟の成立となり、二大同盟の成立は忽ちにして二大同盟の決戦的大戦争となり、第一次世界戦争後殆んど一世紀間の努力によつて改造された世界は、根柢より轉覆せられ、完膚なく寸断せられ、世界は又た新たな形勢によつて支配せらるゝに至つたのである。

二、何故平和は一時的であつたか

然らば何が故に日米間の平和は斯く一世紀の五分の一の短い期間の壽命に過ぎなかつたか。而して、如何様に日米再戦が進展して國際聯盟崩壊分裂の端となり世界的二大同盟の成立となり、二大同盟の決定的大戦争となり、而して又其の二大同盟の決定的大戦が如何なる形式と内容とによつて終局となつたか、而も亦世界大戦終結後に於ける世界は如何なる新形勢によつて支配せらるゝに至つたか、是は恐らく、讀者の何人と雖も例外なく聞かんと欲する所であり知らんことを熱望する所であらう。随つて予輩も亦、其等の一切に關しては、より徹底的なる説明、より解剖的分析的叙述を爲すべき責任がある。いでや筆硯を更めて大戦の根本的禍因より解剖的叙述を試み、諸君の愛國的熱血に觸れよう。

三、滿々たる濠洲の不平不満

日米戦争に於て、日本をして、第一次世界戦に於ける獨逸と同様の運命に陥らしむるまでに追詰めずして、講和條約に調印したといふことに就いては濠洲共和國は大々的の不平であつた。日米戦争が米國に取りて日本に最大打撃を加ふるに千載一遇の絶好機會であつた如く、濠洲共和國に取りても、多年目の上の瘤として居た日本を骨葉微塵に粉碎するには實に天與の絶好機會であつた。濠洲共和國の政治家は、傳統的に敵視する日本の軍國主義を根柢より顛覆し、其の武力を三等國以下に蹴落さなければ、濠洲の國民は枕を高くして寝ることは出来ない。常に間斷なく太平洋の波浪を煽つて、濠洲の平和の夢を脅かすものは日本である。濠洲の白人濠洲主義を脅威して其の主義の實現を常に破壊せんとするものは日本で

ある。日本は曾て日英同盟により露國を粉碎し、疾風迅雷的に朝鮮を丸呑みして獨立を奪つたのみならず、戦勝の餘威を以て、而も東洋永遠の平和を確保する爲めなりと稱して滿蒙の支配權を掌握した。條約面は租借であるが實際は占領である。朝鮮を併合して亞細亞大陸に足がかりを作つた日本は、滿蒙の實權を掌握して、北京政府を睨んで居る以上、支那は之れ巨蛇の前の蟄である。而も日本版圖の兩翼は北は占守島、樺太から南は臺灣に蜿蜒として延びて居り、事實上支那の全沿岸は完全に日本の爲めに封鎖されて居る。語を換へて言へば、日本は既に亞細亞全大陸に對する活殺與奪の實權を握つて居る、日本が其の現在の版圖の兩翼かの何れか一翼を失はざる限り、而して其の龐大なる大海軍と強大なる陸軍とを擁する限り、支那は勿論、亞細亞大陸中に版圖を有する各國は微動をも許されない、徹頭徹尾日本の指頭の動くまゝに左右され支配されざるを得ない。斯くて亞

細亞全大陸に對する活殺權を掌握した日本は、今や其鋭く巨大なる爪牙を南方と東方とに伸さんとして居る。即ち米國と濠洲とは日本が其巨大なる爪牙にかけて意のままに屠り、寸斷せんと狙ひつゝある唯一の目標である。日本は今次の日米戦争に於て其海軍の精銳を喪失したが、彼れは是れ位ゐの負傷に屈するものではない。彼れは中立國の提議に應諾して平和條約に調印したが、決して永遠に其調印の目的を尊重し條約を遵奉せんとするものでない。彼れは早晩俄然起つて猛烈なる打撃を米國と濠洲との頭上に打下すべき既定の事實と見て寸毫の誤りはない。見よ彼れ日本は銳意其打下すべき大鐵槌をより強大ならしめつゝあるではないか。我濠米二大共和國が、此の恐怖すべき強大なる敵に對する途は二つのうちの其何れかを選ぶの外はない。即ち手を束ねて敵の大鐵槌下に粉碎せらるゝか、米濠共力して彼れを其國有の領土内に追詰め最後の止めを刺し以て永劫未來に禍根を絶

つか——である。といふやうなことを無遠慮に言論し、諸新聞も亦た同様の言論を殆んど毎日の如く發表した。無論是れは一面國民をして日本に對する敵愾心を煽ると同時に、他の一面に於ては米國の軟弱な態度に對する憤懣を破裂せしめたものであり、且つ又た同時に世界列國をして日本に對する同情と信用とを撤回せしめんとする目的が含まれて居たのである。

併し、濠洲が日本を敵視し、日本の態度、對外政策に對して譏誣的中傷的無遠慮の言論を弄し非難を加ふることは、濠洲歴代政治家の言論の過半を占めて居た所であるが、此時は場合が場合であつただけに、殆んど其の沸騰點に達し、有らゆる捏造虚構を以て満たされた日本非難の言論叫聲は、歴史上例のない猛烈極まつたものであつた。

米國政府にして飽くまで最初の方針を固守し、濠洲の主張に共同して、其國內

滿々たる濠洲の不平不満

に於ける不逞團の兇暴を網打盡的に根絶するの大英断に出で、断々乎として中立國の調停提議を拒絶し、積極的に戦争を繼續して居れば日本を屈服せしむることとは必ずしも困難な事業ではなかつた。否、三ヶ年の時日を費さずして絶對的屈服を爲さしめることが出来たのである。墨國の如きは殆んど問題とするに足らぬ獨露の諸國は英佛を以て俄に牽制せしめ得たのである。然るに米國が太平洋艦隊の全滅と獨系米人の陰謀とに狼狽辟易し、軟弱なる態度に一變したものは即ち漸く艦内に追詰めんとした猛虎を逸したに等しき永久不滅の恨事である。といふのが濠洲主戰論者一般の思ふ所であつた。

然し日本の國是政策を故意に曲解し、在支英人及米國の排日論者と相呼應して日本を東洋の獨逸と呼び、常に事々に非難し常に對敵行動を採つて來た濠洲の立場から云へば、事茲に至るは蓋し當然である。機會だにあらばと、手具脛引いて

待ちに待つた機會が漸やく到來し、伊ザ此時ぞシャツブの腦味噌を粉碎する時はと踊躍して蹶起するや忽ち相棒の米國に閉口垂れられ、五分々々の引分けて講和條約調印となつたのであるから、謂はゞ助太刀に振り上げた拳骨を打下さぬうちに喧嘩が濟んで本人同士が握手したやうなもの。況んや濠洲は米國に對する助太刀とは表向き、其内實は米國以上に力瘤を入れて居たるに於てをやである。

四、辛辣未曾有の迫害凌辱

而して、其の當然の結果として、在濠日本人迫害事件が猛烈に起つた。平和克復後濠洲各地に種々の個人的制權を有し、事業を有する日本人は、續々と渡濠したが、濠洲人の迫害は頗る辛辣を極め、亂暴狼藉至らざるなしで、往來を歩いても青痰をひつかけられる、洗濯の汚れやら泥溝の水などを頭から浴せられる、故

意と衝突かつて喧嘩を吹かける、故意に足を出して引掛からせて置いて難題を吹きかける、果は寄つて集つて袋叩きにした上に下水溝に投げ込むのみならず、日本人に對しては何一品たりとも絶対に賣買しないといふ非賣買同盟を行ひ、從來屢々支那各地で行はれた對日非賣買同盟所の話でない。而も是れには米人は勿論英佛人から支那人朝鮮人までが加はり、有らゆる侮辱と有らゆる迫害とを加へた。「堪へ得る丈けは堪へよう、忍び得る限りは忍ばう、白人濠洲を國是とする濠洲である、殊に平和は克復されたとは云へ戦後幾何も経たない時である、多少の迫害あるべきは覺悟の前だ、吾々が彼等の迫害に反抗して大事に至らしむるは國家に忠なる途でない、天人共に容さざる彼等の暴戾は應て天誅によつて償はれる時が来る、忍べ、忍べ、吾々日本人の堪忍袋が最後の勝利を得るか、彼等の迫害が凱歌を奏するか、自ら頭髮を搦つても忍べる丈け忍べ、堪へ得る丈け堪へて見よ

う」

之れ在濠日本人の總てが、彼等の有らゆる暴戾と迫害とに苦しめられつゝも、各自の心に誓つた健氣な決心であつた。

けれども、彼等の迫害と侮辱とは、日に／＼猛烈の度を加へた。彼等は日本人が何等反抗的態度に出でず、寧ろ黙々として彼等の有らゆる迫害と侮辱とに屈するが如き有様を見て、益々増長し、益々迫害侮辱を逞くし、「無恥の豚」、「無能のジャツブ」とまで嘲弄と侮辱を加ふるに至つた。

而も斯くの如く、日本人といふ日本人が、暴戾寧ろ殘忍なる迫害と侮辱とに虐まれつゝある事實の、一度び日本に報道せらるゝや、一億の國民は猛然として憤激の聲を揚げた。

日本政府は、大使領事の報告並に各方面よりの情報により、濠洲政府に對して

強抗な抗議を提出した。然るに濠洲政府は、意外と云はんよりは、寧ろ亂暴極まつた回答を以てした。即ち、曰く官憲の最密なる調査報告によれば左様なる事實はない、想ふに日濠人間の個人的感情の衝突に原因する個人的紛争であらう。然し日本政府及び一般國民は、吾濠洲が白人濠洲主義によりて一切の政策を行ひ一切の問題を解決せんとすものであることを諒解して置いて貰ひたいと、いふが如き、現然たる事實を全然否認するのみか、喧嘩腰の態度を無遠慮に示した回答を以てしたのであつた。

否、濠洲の喧嘩強賣の態度は、單にそれのみでなかつた、官憲は密かに非賣買同盟を煽動し氣勢を添へて援助するが如き事實が尠くなかつた。爲めに在濠日本人中には、彼等の迫害と侮辱とに堪へず、多年の努力によつて築き上げた事業を抛擲し、無念の涙を呑んで本國に引揚げるものも尠くなかつた。

咄！ 之れ何等の暴戻ぞ、何等の人道蹂躪ぞ！ 神人共に容さざる濠洲白人の不法なる迫害と侮辱！ 而も加ふるに、相互に擁護扶助すべき支那人朝鮮人までが、彼等の一味となつて事を爲すに至つては、最早や區々たる一小問題ではなくて日本帝國の面目問題であり、威信問題であり、最早や尋常一般の手段を以てすべき範圍を超越した問題である。武力！ 武力！ 事茲に至つては、最早や百萬遍の文書や口頭の交渉は無駄である。斷々乎として武力的威力を以て同胞數萬の面目を清め權利利益を擁護確保し、帝國の面目と威信とを回復し、二度と再び斯くの如き事件の出來せざるべく彼等の頭上に峻烈に巨楔を打込み置くべきであり而も是れ以外執るべき手段も方法もないのである。

五、日本朝野の沸騰

果然、日本の言論界は爆然として沸騰した。全國の新聞は一齊に筆を揃へ辭を盡して濠洲に於ける日本人迫害侮辱問題を論じ、濠洲政府及び暴戾無道な國民を極端に痛撃し、彼等の非道罪惡は最早や議論の餘地がない、而も濠洲政府は明白に露骨に挑戰的態度を示して居る、政府當局は直ちに時間を限定して最後通牒を發せよ、而して要求の一切に聽従するの正道に出づることなくんば、直ちに起つて傲慢無禮なる彼が頭上に一撃を加へよと絶叫するに至つた。

之れと同時に朝野の硬論派は一齊に起つて咆哮し、國論熱し民論沸騰し、講釋師、浪花節の寄席藝人に至るまで、本職の講釋や浪花節をそつちのけにして時事問題を論じ、平和を標榜して無法の喧嘩を賣り、數萬の同胞に有らゆる凌辱と迫害とを加ふる南洋ゴリラを退治せよと叫び、お客の方も寧ろその方に熱狂し、中には高座に躍り上つて滔々と演説を始めるといふ有様、其の殺伐なる光景は事

ろ日米戦當時に於ける以上であつた。

この言論界の沸騰につれ日本に於ける有らゆる労働團體は奮然蹶起し各々團體總員の非常召集を行ひ、其の決議によつて委員を選舉し、東京に全國労働團體聯合同盟大會を開いた、ところが何しろ委員の外に示威的に隨行する團員が各團體から數百人、或は數千人といふ盛況であつたのであるから、東京に集中した總數は實に無慮數萬の多きに達した。而して是等の各労働團體は各々濠洲征伐の大旗を翻へし聯合して東京市中を練り廻つた。委員は中央公會館に委員大會を開き政府を督勵して斷乎たる措置に出でしむること、同時に日本全労働團體同盟の名により、濠洲の非道罪惡を世界各國の労働團體に訴ふること、並に全國の労働團體は一致協力して濠洲膺懲の目的貫徹を期することを滿場一致を以て決議し、政府督勵員は直ちに總理大臣以下各大臣に面會を求めて決議文を手交し、萬國飛機

委員は直ちに檄文の起草に着手し、檄文は印刷に付せられ世界各国の有らゆる労働團體に向つて發送せられた。又た運動委員は元老を始め朝野の有力者を歴訪し宣傳委員は部署を定めて全國に演說會を開き、火の如き熱辯を揮つて濠洲の罪惡を鳴らす等、其の活躍は實に目覺しきものであつた。

六、列國の義憤、非難濠洲に集注す

濠洲に於ける不法惡辣なる排日事件は、列國の通信員によつて詳細に各本國へ報道せられた。殊に日本に好意を有する獨露佛伊埃等の諸國の通信員の報道は驚くほど明細を極めたものであつた。而して其等の報道が一度び新聞紙上に掲載されるや、各國民の義憤は火の如く炎々と燃えた。新聞といふ新聞は一様に濠洲國民の野蠻的行爲と濠洲官憲の無責任を非難し、濠洲の態度は蔽ふべからざる純然

たる挑戰的態度である、此の事件によりて日濠間に戰爭が起るとすれば、其の一切の責任は濠洲にある。濠洲官憲と國民との態度行動は、如何なる曲庇的辯護を試みんとするも到底絶對に不可能の罪惡であり、挑戰的態度行動である、濠洲が標榜しつゝある白人濠洲主義は、正義人道の破壊主義である、平和愛好に樹立された正しい主義ではなくて、他國民を無法に排斥し他國民の權利利益を蹂躪し、其の平和と自由と幸福との一切を破壊し侵害せんとするものであると論じ、且つ各國の労働團體は或は單獨に或は聯合して、濠洲民に警告を與へ、覺醒と反省とを促した。

けれども野獸の如き彼等濠洲國民は馬耳東風に聞き流し、列國の非難の如き殆んど問題としなかつた。彼等は寧ろ冷笑的態度を以て有らゆる非難を迎へ何等の反省的事實を示さなかつた。

茲に於て、列國民の濠洲に對する態度は一變し、警告的より非難攻撃的となつた。流石の英佛さへも呆れ返り其の言論界は急に口を緘んで婉曲なる警告をも中止してしまつたほどであるから、濠洲の頑冥不靈推して知るべしである、其間常に濠洲の爲に有らゆる曲庇を敢てすることを怠らなかつたものは獨り米國あるのみであつた。米國は最初から米國一流の誇大的言論を以て濠洲の上に辯護を加へ濠洲の白人濠洲主義は米國の米人米國主義と其の目的を同うするもので、濠洲の國家存立上の絶對必要條件であり、濠洲國民生存權の要求する必要的結論であると曲論し、到れり盡せりのに縦横の辯護を試みたのである。

然しながら各國民は米國の曲論に欺罔されるには餘りに正義的であり餘りに賢明であつた。斯くして世界列國の非難の聲は濠洲に集注した。傲慢不遜暴戻にして國際道徳を無視して顧みない濠洲は、今や列國非難の集點となつた。濠洲の官

憲と國民とは大海嘯の如き世界の非難攻撃の煽に包まれてしまつた。

七、奇怪！ 奇怪！ 濠洲の態度一變

然るに其後、濠洲の對日態度は掌を覆したやうに急變した。一年餘に互つた辛辣なる非賣買同盟はバツタリ熄で火の消えたやうに平穩になつた。未曾有の不法を極めた迫害と凌辱とは忽ち熄み、寧ろ非常の親愛的態度を示すやうになつた。奇怪！ 奇怪！ 實に奇怪であり不思議である。が然し此の濠國の態度の急變は米國大統領の濠國大統領訪問後に起つた事實であつた。此より見れば、其間何等かの秘密協定の成立した結果であるべきは最早や疑を容るべき餘地なしである。知らず、米濠兩大統領は、果して何事を議し何事を協定したであらうか？

八、突として出現せる日米商會

日米戦争後に於ける日本人に對する憎惡、反感、敵視、侮辱等、有らゆる迫害は、獨り濠洲のみでなく、米國に於ても頗る猛烈を極めた。而してその兇暴なる迫害は日に月に激烈の度を加へて來た。

斯く全米に亘り全米國人が舉國的に日本排斥日本人迫害をやつて居た時に、突如、全米國人の行動を裏切る事實が現はれた。それはアメリカジャパン・エント・コンパニー即ち日米商會なるもの、出現したとである。而も此の日米商會出現の徑路は、米國人に取りては餘りに突然であり、餘りに非米國のであつた。

丁度、○月第三週の月曜日、即ち日米講和條約の締結された米國に取りての名譽の記念日には、同日午前八時を期し、全國一齊に排日示威運動が行はれたが

其の翌日の紐育タイムス及び米全國の代表的大新聞紙上に、突如左の如き大々的廣告が、而も貴重なる新聞の各一頁を占領して全米人の前に非常の刺戟を以て現はれた。

我日米商會は日米講和條約締結第○回記念日の正午を以て生れたり、我日米商會の使命は日米戰以來特に著しき速度と力とを以て相反撥し、相離反し、戰慄すべき危険の深淵に向つて驀進しつゝある日米兩國民を經濟を基礎としたる有らゆる手段方法の下に融解し、徹底的に理解せしめ、眞の友誼的立場に立たしめ、兩國民の親善提携をより近き將來に於て實現せしめ、日米國民間の友誼的平和を永久的に確立せしむるにあり。日米衝突の原因は、米國民の誇大妄想と、傲慢と、傳統的他人種排斥觀念と資本的侵略主義と、之れに對する日本の武力的驕慢と植民的侵略主義とにあり。而して日米兩國民が各々

突として出現せる日米商會

是れを以て善良にして神聖なる國民的優越點なりと誤信せるにあり。此の重大なる缺點が日米兩國民より根本的に除去せられざる限り、日米の衝突は永久に連續せらるべし、日米兩國間に置かれたる直徑七千哩の太平洋は、日米兩國を戰爭より隔離する緩衝地帯として、先天的に兩國間に與へられたるものなりと雖も、兩國民の戰爭を惹起すべき諸缺點は相互に於て此の自然的緩衝地帯を突破し、遂に此の緩衝地帯の上に於て流血の慘事を演ずるに至り、而も此の龐大なる緩衝地帯の上に於ける流血の慘事は、再びより以上の大規模とより慘虐なる状態とに於て實現すべく傾向しつゝあり。

由來流血の戰爭は如何なる理由と名目の下に行ふ共、絶對最大の罪惡たるを免がれず。日米間に於ても然り。即ち勝者となるも敗者となるも、共に人類最大の罪惡の共犯たるを免がれざるのみならず、米國の勝利は必ずしも米國の利

益にあらず幸福にあらず、日本の勝利亦た決して日本の利益を確立し安定せしめ日本國民の幸福を最大に導く所以にあらず。否、日米共に現在把持せる權利と現在支持せる利益と現在享有せる幸福との一切を失ひ、猶且つ將來永遠の權利の脅威を受け、將來永遠の幸福を破壊するものなり。之れ我等が我が米國の爲めに欲せず、又友邦たるべき日本の爲めに探らざる所なり。

米國の權利利益幸福の一切を永久に支持し且つより増進し、日本に對する友誼交情の赤誠の支持者たらんとする我等は、茲に總資本十億弗を以て日米商會を組織し、日米兩國民の諒解親善國家的國民的利益幸福の増進を目的とし、之れを期待し得べき又た實現せしめ得べき可能性を有する貿易事業其他一切の商行爲に従事せんとす。

我等は此の行爲が一般米國民によりて非國民的なり、尠くとも現在に於ける

米國民一般の對日感情と行動とに背馳し、米國民を裏切り米國を賣る非愛國的行爲なりとして舉國的非難攻撃せらるべきを豫知せざるに非ざるも、我等は我米國民が我等に三年間の時日と與ふるの寛大を以てし、我等の事業、我等の行爲が、果して幾何の結果を獲得し幾何の幸福を我米國及米國民の上に齎すかを監視せんことを要求す。

此の宣言的廣告は忽ち全米に互つて反響を喚起した。或は之れを以て日探なりと斷言し、或は非國民商會、賣國奴の團體なりと攻撃し、或は米國及米國民を日本の鐵蹄下に蹂躪せしめんとする米國民共同の敵なりと咆哮し、或は日本の犬となつて忠勤を盡さんとする不逞漢なりと非難し、米人一流の露骨無殘の非難攻撃は八方に起り、暴漢の襲撃は日々數回に及び脅迫狀の舞ひ込むこと日々數百通の多きに及んだ、紐育官憲は直ちに日米商會の内容に對して嚴密なる調査

を行つたが、次週の金曜日、紐育警察長は、日米商會の内容は米國及米國市民の不利益を計らんことを企圖せりと思惟すべき何もものをも認めずと發表した。此の紐育警察長の發表は、日米商會に對する一般國民の非難と攻撃と疑雲とを除去し緩和することに効力はあつたが、然し中には全然警察長の無能に歸せしめて信用しなかつたものもあり、半信半疑の眼を向け、或は『我等米國全市民は、我等全市民の日米商會に對する嫌疑問題に對する紐育警察長の證明を受領せり、然れども若し將來に於て該商會が米國及米國市民の不利益を圖りつゝある事實が明白となつた場合紐育警察長は果して何を以て今日の無能と失態とを米國市民に謝せんとするか、我等全米市民は是に對する紐育警察長の保障を要求す』といふが如き、頗る執拗にして辛辣なる論を向けるものも尠くなかつたが、紐育警察長は、

突として出現せる日米商會

「若し將來に於ける日米商會の行動が、我米國及米國全市民の不利益を圖る目的を以て組織せられ現在其目的を遂行すべく努力しつゝありといふ事實が、明白なる事實によつて立證せられたる場合は、予は米國全市民の前に予の生命を提供し、其の自由處分に委すべきを宣誓す」といふ宣言を發表した。此の紐育警察長の宣言は日米商會を日探機關として嫌疑をかけて居た米國多數民の疑を八九分通り一掃することが出来た。

一方日米商會は、十億萬弗といふ龐大なる資本を以て海岸通りに巨大なる建築を構へ、着々其宣言した所の事業に向つて實行を始め、横濱大連に支店を設置し、東京、大阪、小樽、仁川、臺灣等の各地に出張所を設け、米國內に於ても事業上重要な各地に支店或は出張所代理店等を設け、翌年の日米商會誕生記念日には、一切の準備完成し、既に事業は着々進められ、非常の好評と優秀な

商業的成績を示して居た。

随つて、曾て同商會出現當時、疑ひの眼を以て注視した者も、日米商會の目的が、米國全市民の不利益を圖らんとするが目的でなく、真に其宣言の如く日米間の衝突の原因を經濟的手段によつて除去し、米國及米國全市民の將來を平和の樂園に置かんとするものであることを略ぼ認むるやうになつた。

九、驚嘆すべき大計畫と大活躍

突として宣言書を發表して以來の日米商會の計畫と活躍とは、實に驚嘆といふの外形容すべき言葉がなかつた。

ロスアンゼルスには數百萬弗の巨費を投じて、日本と直接通信を行ふ大規模の無線電信所を設置し、布哇にも亦商業用の無線電信所を設置し、横濱にもロスア

ンゼルスと同様の無線電信所を設け、横濱の日米商會無線電信所長には日本の
〇〇伯爵を名譽所長に戴き、横濱支店及び東京大阪其他各地の出張所員には日
米人を半々に使用し、日本輸出品を殆んど一手に引受け、米國の輸出品にして日
本に輸入せらるゝものも、驚くべく僅少なる利益によつて取扱ひ、日本製品は單
に米國に輸入するのみに止まらず、世界各國に供給し、歐洲方面の物價も極めて
少額の利益を以て日本に供給した。而も其等の貿易事業も、利益壟斷主義に立脚
して居るのでないから、日米に於ける從來の貿易業者を侵害するやうなことは斷
じて爲なかつた。事苟くも其等日米貿易業者に不利益を與へ反感を惹起するが如
き事は、貿易業者の利益を兩國國民一般の利益幸福の點より打算考量し、有らゆる
便宜を圖るを惜まなかつた。

従つて日米間の貿易は、未だ曾てなかつた盛況を呈し、從來の貿易業者の利益
を増大せしめたと共に、兩國國民の幸福は非常に増進せしめられた。

日本の官憲に於ても、時期が時期であるから最初は日米商會なるものに非常
な注意を拂ひ嚴重なる警戒を加へ、苟くも軍事探偵的舉動あらば、日本に於ける
該商會の行動に斷乎たる處置を執るべく、有らゆる手段方法を盡して該商會
の内容に内偵を行つた。然し、恰かも紐育警察署長が調査したる結果と同様、
商業的に日米間の融合親善を期せんとするの外何等怪しむべき目的の伏在を疑ふ
べき餘地はなかつた。

紐育の日米商會本店では、日米商會の名を以て日本朝野の有力家に長文
の無線電信を發し、其目的の一切を披瀝し、日米兩國の永久的平和と國交の親善
を期する爲め充分の援助を與へられたしと懇請し、在日支店長、出張所長をし
て絶えず其等の有力者を訪問せしめ、其の意見を叩き、絶對信認を得るに遺憾は

なかつた。

爲めに日本政府は勿論、民間の有力者は、悉く日米商會に絶對の信認を置くに至り、積極的に援助を與へるまでに踏み込んでしまつた。

併しながら極端に猛烈なる日本人排斥迫害の行はれて居た真最中に、それと全然目的を異にした日米商會が而も突として日米講和條約締結記念日に出現し、當時の一般米國民が夢想だもしなかつた反對の方面に幕進し、十億萬弗の龐大な資本を提げて日米間に活躍し、紐育警察長をして保障的宣言を爲さしめ、日本朝野の絶對信認を得るに至つたのは一の不可思議なる出來事で、日本國民をして、米國人中の健全分子は、必ずしも日本との戦争を要求するものでなく、日米間の無衝突に一步を進めて親善提携を熱望しつゝあることを思はしむるに足るのであつたが、果して日米商會は、其の宣言の如く、日米間の衝突の一切原因

を除去し、眞の永久的日米親善を期せんとするが最後の目的であり事業であつたであらうか、曾て保障的宣言を發表した紐育警察署長は後日日米商會の爲めに全米市民の前に自己の生命を投げ出して其の存分の處刑を受けるやうな破滅に陥ることはなかつたであらうか。又た日米商會に對して絶對信認を與へた日本政府並に民間の有力者は、他日それが重大なる禍因となつて、日本帝國の前途を暗黒に導き去るが如き、言語に絶した大事件を惹起することはなかつたであらうか。而して又日米商會の出現と事業とが、日米再戦に當りて、米國をして逸早く日本の死命を制する唯一の材料となり機關となることはなかつたであらうか？：。

一〇、戦慄すべき日米商會の大陰謀

果然！十億萬弗の龐大なる資本を以て日米間に商業的に活躍を始めた日米商

會は、數年後になつて戦慄すべき大陰謀團體たる正體を暴露するに至つた。日本に取りては致命傷たるべき大機密を握られ、上下を擧げて震駭驚愕爲す所を知らざる大事件を惹起せしめた。

日米間の衝突の一切原因を除去するに在りと稱した事は悉く虚言であることが分つて來た。商業的手段方法によつて日米兩國の感情の反撥を融和し、徹頭徹尾友情の上に置かれたる永久的平和状態の實現を期すと稱したことは、米國民を欺き日本を欺罔し、日米再戦の際日本に對し電光的速度を以て大打撃を加ふべき材料を得んとするが最後の目的であることが知れて來た。露骨なる日本排斥、日本人迫害以上に恐るべき危険物であることが漸く發見されて來た。一億の日本國民をして、三千年の光榮ある日本帝國は近き將來を最後とし、永久に極東より滅し去るの外なく覺悟するに至らしめた。

日米親善の美名に隠れて、日本の死命を制せんとした日米商會は、其目的を達せんが爲めには何ういふ手段を執つたか、商業の名の下に日本政府及び民間有力家の絶對信認を得たる後に於ける、彼の行動は果して何んなものであつたか。其一切の行動に關する詳述は順序上後章に譲り、一轉して米濠の歐洲列國に對する外交的暗中飛躍の真相を述べる。

一一、國際聯盟瓦解の第一歩

日米講和條約成立の翌年、國際聯盟最高委員會議開催せられ、聯盟各國の委員は、山紫水明風光明媚なる瑞西ゼノア湖畔なる國際聯盟本部に集合した。日本の委員も出席した。米濠の委員も出席した。英、佛、獨、露、伊、白の諸國は勿論聯盟に加入せる國の委員は悉く漏れなく出席した。

斯くて會議は開かれたが、米濠の兩國は國際聯盟の無力を非難し、聯盟規約中に「聯盟加入國は國際聯盟會議の承認を経ずして、各國の自由意思によつて國際の平和を保障する目的を以て攻守同盟の密約を爲すことを得」といふ一條を追加せんことを主張した。之れに對して英佛の委員を除く他の列國委員は、そんな條項を追加するのは、國際聯盟不信認を表するもので、つまり國際聯盟の破壊を意味するものである。聯盟各國が各自の自由意思によつて攻守同盟の密約を締結し得るといふことになれば、國際聯盟其ものを否認したものであり、國際聯盟を有名無實に至らしむるものであり、國際聯盟の精神目的に背馳するものであると論じ、米濠の主張に反對した。然るに英佛兩國の委員は、和蘭の委員が反對の演説を爲しつゝあるうちに、議席を離れ、議長の許可を得ずして會議室外に出てしまつた。ブラジル國委員は、英佛委員の全部が、他委員の演説中議席を離れ而も

議長の許可を経ずして猥りに退席するは規則違反であると議長の注意を促がしたが、議長たる英國委員長は冷然としてブラジル委員の注意を顧みなかつた。ブラジル委員は議長の態度を非難し、大いに喰つてかゝつた。列國委員亦た大いに議長の態度に憤慨し、議場騒然として殺氣横溢するに至つた。議長は一應英佛委員を取調べ、相當の措置を爲すべしと稱して休憩を宣した。

一一一、英佛米濠の横暴

休憩後劈頭第一ブラジル委員は、英佛委員の無斷退席問題について議長に肉薄せんとして發言を求めたが、議長はブラジル委員の發言要求に答へず、英佛委員の無斷退席委員問題について報告すべしと稱し、予は議長の職責と職權とを以て英佛委員の無斷退席の理由を調査せんとしたが、英佛委員は既に本部を去つて旅

館に引揚げ一人の殘留者を認めなかつた。故に明後日の會議までに調査報告すべく、本日の議事は事重大にして英佛委員を除外して議事を進行せしむるは結果として無効力たらしむる虞れあるが故に、本日の會議は直ちに中止すべきを至當と認むと云ひ解散を宣した。満場の各國委員は憤然として議長の非理横暴を非難し議長を包圍して其の不當偏頗の措置を詰責したが、議長は冷然として一言も答へず、サツサと議場外に去つてしまつた。

此の事件あつて以來、聯盟會議は満足なる進行を見ることが出来なかつた。後には英佛委員は勿論、米濠委員までも出席しなかつた。議長も病氣と稱して議場に姿を見せなかつた。

各國委員は英佛米濠の態度に憤激し、彼等は共謀して國際聯盟破壊を企圖せるもので、米濠の提案も豫定の行動であり、英佛兩委員の無斷退席も豫定の行動で

あり、議長が非常識の亂暴なる態度を敢てしたのも悉く豫定の行動を豫定の如く實行したものに外ならぬと非難し、我等は英佛米濠委員の行動に頓着せず會議を繼續進行せしむべきか何うかを討議に附した。

然しながら、英佛米濠の四大強國の意思に頓着しないとすれば、取りも直さず英佛米濠を事實上除名處分に附したも同様であり、随つて又國際聯盟は分裂したものであり、英佛米濠の行動に對しては全然勢力を及ぼし得ないものとなる。既に英佛米濠四大強國の行動に對して掣肘を加へ得ない國際聯盟では、名は國際聯盟でも、世界平和の絶對的保障力とはならないのは言ふ迄もない明白事である。そこで一應英佛米濠委員に交渉し、其の意嚮を質し、其回答如何によつて更に今後の方針を討議することに決定し、日獨露伊伯支六國の委員長が交渉委員に擧げられ、英佛米濠委員の旅館を訪問し、交渉の衝に當つた。英佛米濠委員は、「單獨

に回答し得ず、四國委員協議の上明日正午までに明確に回答すべし」と稱して即答しなかつた。然るに其翌日の午前十一時濠洲委員長は四國委員を代表し、交渉委員本部を訪問し、回答書を提出した。其回答書の全文は、
「我等英佛米濠各委員は、國際聯盟を實質的に改造し、更により有效なるものたらしめんとするの目的を以て、米濠委員は四國委員を代表して攻守的密約締結自由案を提出せり、故に各國委員に於て該提案を承認し可決確定することに同意を表せざる限り、我等英佛米濠四國委員は絶対に會議に出席することなかるべし」と云ふ驚くべき横暴振りを露骨に示したものであつた。

一三、形勢急轉直下

危険なる低氣壓を生じたゼノア湖畔の形勢は急轉直下した。

英佛米濠四國の委員は、日獨露伊伯墨支の交渉委員に對して、言語道斷の答辯を與へた翌々日、連袂して突如ゼノアを去つた。而かもゼノアを去るに當つては各國委員に對しては何等の通知もしなかつた。是れが爲めに英佛米濠委員と日獨露伊伯墨支諸國委員とは、最早殆んど收拾すべからざる乖離の下に置かれ、形勢は更に重大なる危険に向つて直下した。

ゼノアを去つた四國委員は、佛都巴里に集合し、外務省に秘密會議を開き、今後の態度行動に關して鳩首協議を凝した。然し、該會議は絶対秘密に行はれたので、四國委員が果して何事を協議し、何事を決定したかは分らなかつた。只だ四國委員が佛國外務省内に連日秘密會議を開いたこと、而して何事かの重大問題を協議したといふことしか分らなかつた。

一四、軍事探偵團の活躍

巴里には無論各國の軍事探偵が入り込んで居た。日本の軍事探偵も居れば、獨逸や露國は素より、支那、伊太利、伯利爾等の軍事探偵も入り込んで、各々暗中に飛躍して居たが、ゼノアに於ける軍事探偵より英佛米濠四國委員が、非違の行動を取って、突如ゼノアを退去し、巴里に向へりとの秘密暗號の無線電信を受け受するや、各國の軍事探偵團は俄かに活動を開始し、英佛米濠委員の一舉一動に精探の歩を進めた。

中にも日獨以下六國の軍事探偵は、エフイー商會の地下室に會合し、提携共力して一切の行動を終始すべきを誓約し、探偵上の打合せを爲し、部署を定めて活動することに決定し、密議二時間後には、早くも六國軍事探偵は各方面に向つ

て機敏大膽なる冒險的大活動を開始したのであつた。

而して、活動中にも各國軍事探偵は、種々の秘密的手段方法によつて連絡を取り、相謀つて最善の努力を以て行動した。

斯くて日獨露伊伯支六國を中心勢力とした各國軍事探偵の精探し密偵した結果英佛米濠四國間には、日米戦後既に默契成り、共同動作の準備が成立して居たことが分つた。随つて、國際聯盟會議に於て、英國委員が連袂して無斷退席したことも、開會前の番組の實行であることが分つた。又た其問題に對して、議長が曲底的非違の言動を取ったことも、彼等の無斷缺席も、連袂退去も、悉く豫定のプログラムをプログラム通りに實行したものであることが明白に分つた。而して英佛米濠四國は現在の國際聯盟を破壊し、四國を中心とした秘密攻守同盟を締結し、先づ米濠をして日本を迫害せしめ、日本が米濠に對して宣戦するの已むなき

に至らしめ、日米濠戰を再發せしめ、英佛は獨露の援日軍事行動を牽制して米濠を援助し、且つ海軍をして共同戦闘に當らしめ、日本を舊獨逸以上に擊破し、日本の彈力を根本的に喪失せしめ、支那大陸の分割を行ひ、黄人亞細亞を白人亞細亞となし、英佛米濠によつて世界の支配權を掌握せんことを最後の目的とするに在ることも分つた。

而も、是等の陰謀計畫は、悉く米濠兩國によつて主張され畫策されたもので、米濠の決心は、假令英佛が反對しても斷じて動かさず、若し英佛が共同を承諾しなければ米濠兩國のみで決行するといふ大決心で、國命を賭しても日本擊滅の目的は翻さないと云ふ斷乎たる大決心であることも明瞭に分つた。

一五、ゼノア湖畔の大會議

在巴里日獨露伊伯支諸國の軍事探偵によつて偵知された事實は、暗號無線電信を以て一々ゼノアに在る其本國委員に向つて急報された。それによつて六ヶ國の委員は彼等の不誠意を憤り、惡辣無道の陰謀を憤慨し、各國委員に通告して委員會議を開き、善後策について凝議した。

其中でも、支那の委員は四國の國際聯盟破壞の裏面に潜めら魂膽が、獨り日本を擊滅せんとするに在るのみでなく、四國によつて支那を分割せんとするに在る事實、殊に該陰謀の張本が英國でなく佛國でなく、從來日本の侵略政策より支那を救ふと稱して、それらしい行動を爲て居た米國と濠洲とであることを知るに及んで、非常に憤慨し、議場に於て悲憤の涙を揮つて米濠の假面主義、美名侵略主義を痛論し、米濠は獨り日本を擊滅し支那を分割するのみに止まらず、英佛を籠絡して世界小弱國一切の併呑政策を遂行し、有らゆる我利的背人道的虐政暴政を

行ふに相違ない。これ名を正義人道に借りて不正無道を行ひ、平和を標榜して平和を攪亂し、他國民他民族の虐殺を行はんとするものであり、文明を口にして非文明的行動を行ひ、自由平等を宣して天人共に許さざる世界共通の敵であり、人類共同の敵であると極論力説し、現在の國際聯盟を解散して、新たに英佛米濠を除く一切の大小國を以て鞏固なる攻守同盟を組織し、英佛米濠に對抗せんことを提議主張した。

此時の支那委員の熱心と憤激と勇氣と決心とは、第一次世界戦當時、巴里講和會議に於て、山東問題其他對日本問題について、爲した以上のものであつた。

一六、支那始めて目醒む

日米戦後支那政府並に其一般國民の態度が一變し、多年の親米親英主義から親

日主義となつたことは、日米戦の副産物として最も著しい事實の一つであつたが、此の急劇なる變化については、各國の觀る所一様ではなかつた、或は日本外交の成功であると觀、或は支那の覺醒であると云ひ、或は支那一流の内股膏藥主義であると評し、或は一種の日本欺瞞手段であると言ひ、或は黄色人種統一の前驅的現象であると云ひ、或は世界が黄色人種の手によつて支配せられんとする徴候であると稱し、區々として一定する所なかつた。日本でも朝野識者の意見は異つて居た。而して支那の親日態度は、眞の誠意ある親日態度であるか否かは、俄かに判斷し得ないものである、從來の例に徴しても俄かに信ずるは早計であり危険であるといふ意見が優勢であつた。

然しながら、日米戦後に於ける支那が親日態度に傾いたのは、決して從來の如き内股膏藥的のものではなかつた。又た欺瞞的のものでもなければ、日本外交の

成功でもなかつた。手つ取り早く言へば、支那政府と國民とが徹底的に自覺した結果であつたのである。

支那は從來政府も國民も米國と英國を信頼して居つた。殊に米國は日本を牽制し、日本の侵略政策より救ひ出し、呉れる正義人道の國だと思ひ信頼して居つた。故に支那は多年親米主義を取り、事毎に排日主義を執つて居た。日米戦の時も米國側に起つて日本に宣戦し、朝鮮の獨立陰謀團體を援けて日本に反抗せしめ、大いに日本を惱まし苦しめた事實は、既に日米戦争未來記に縷述した通りである。然るに、日米戦終局後、米國は、支那に於て、支那が親米主義より親日主義に一變する動機となるべき問題を提げて迫つた。それは、米國は今次の對日戦に於ては、已むを得ざる理由によつて戦争を中止し、平和條約に調印したが、然し我米國は決して日本撃滅の目的を抛棄するものではない、近き將來に於て迅速な

る方法によつて日本撃滅の目的を遂行せんことを期して居る。其の目的遂行上支那政府に於て、從來日本に與へたる利権の一切を回收し、其利権に關する條約を破棄する旨を宣言し、且つ日本に通告し、同時に該利権の一切を米國に與へて貰ひたいといふ頗る蟲の好い事であつた。

此の米國の要求は極めて秘密に交渉せられたが、是れには流石の支那も驚いた。從來の米國の支那に對する主義から云へば、假令支那をして日本に與へた特殊利権を回收せしめても、其の一切を擧げて米國に與へよなどの要求は出來ない筈である。日本の手より奪つて米國に與ふれば、米國は都合が好いか知らぬが、支那に取りては日本の怨みを買ふに定つて居る。元來支那が然ういふ事を爲ようとし、日本がオイソレと承諾するやうなことは萬一にもない、武力にかけても拒絶するに定つて居る。

而も其時、米國が何處までも兵力的援助を與へて呉れるかと云へば、それは約束はしても實行は甚だ覺束ない、日米戦當時も支那は米國側に起つて日本に宣戦したが、米國は何等兵力的援助を與へなかつた事實によつて見るも、一朝支那が日本と開戦する時に當つて米國の兵力的援助を得ることは先づ／＼絶対に不可能と云つてよい。

假りに百歩を譲り、日支開戦に當つて支那が米國の兵力的援助を得ることが可能であり、且つ實際に其援助を受け得たにしても、戦後米國は其の報酬を要求することなく黙つて居ることは斷じてない。必ずや更により以上の大要求を持ち込むに相違ないことは自明の理である。

つまり、支那が米國の要求に従ひ、日本に與へて居る特殊利權を日本の手より奪ひ返して米國に與へんとすることは、右の獅子より餌食を奪つて左の虎に與へ

んとするに等しいもので、右の獅子が文句なしに承諾すれば兎に角、然らざる限り、支那は非常の危険に陥ることになる。即ち、右の獅子が承諾せず、實力的に利權を確保し支那の無法なる要求を拒絶すれば、左の虎たる米國の御機嫌を損ずる恐れがあり、日米再戦して米國敗戦すれば日本は更に峻烈なる要求を提出するに定つて居る。若し日本が零敗して絶対無條件降服をすれば、獅子の脅威を免かれ得る代り、虎の脅威は更に一層甚だしくなる、のみならず、日本といふ目の上の瘤がなくなつた米國は、何んな要求を持ち込んで来るか知れたものでない。然らういふ場合に米國を牽制して支那の危険を救ふものは日本でなくてはならぬ。然るに日本が米國の爲めに撃滅されたとなれば、米國を牽制する者が無くなるのであるから、支那は分割されようと、八裂きにされようと、乃至米國に併呑されようと、支那が其れを排撃して、獨立の地位を確保する丈けの實力的彈力のない

限り如何とも出来ないものである。

換言すれば日本の滅亡は直ちに支那に對する脅威である。従つて支那が自國の獨立的全安を期せんとするには自國の實力を充實するの必要は勿論であるが、日本の獨立を脅威するが如き事態に對しては、日本と行動を共にして、其脅威力を排除しなければならぬことに氣がついたのである。從來とても然ういふことに全然氣が付かなかつた譯ではなかつたが、それを痛切に感ずる丈の重大なる刺戟に接しなかつたために、米國の甘言世辭に籠絡されて親米主義に傾向して米國の勢力によつて友邦たる日本を制することに努めて居たのであつた。

支那は政府も國民も、多年米國の假面主義に欺かれて居たのを悔いた、而して日本を排斥し、敵視し、常に日本の不利益を圖つたことが、支那の爲めに非常の不利益であつたことを痛感し、親米主義は一轉して親日主義に早替り、國際聯盟

會議に於ても何處までも日本と行動を共にし、米國の無法なる要求を拒絶し、籠絡手段に乗せられなかつたのである。米國が濠洲と語らひ、日本撃滅支那分割を計畫し、英佛を味方に引入れて國際聯盟會議に非違の行動を敢てし、突如ゼノアを去つて巴里に四國委員の秘密會議を開いたのは、然ういふ事實が與つて力あつたのである。

一七、國際聯盟瓦解、二大同盟の對立

第一次世界戦によつて成立し、兎に角無事に約八十年間の平和を維持して來た國際聯盟は、日米戦に瓦解の端を開き、其翌年に至つて英佛米濠委員の連袂ゼノア退去によつて全く瓦解して仕舞つた。

而して英佛米濠は相團結して攻守同盟を結び、日獨露伊伯墨支諸國亦た團結し

て攻守同盟を結び、相對峙して軍備を擴張した。第一次世界戦以來、一團となり國際聯盟によつて支配されて居た世界は、逆轉して二大同盟の對抗によつて支配される形勢となり、殺伐なる戦争主義は世界の人心に漲り、暗澹たる風雲は、漠々として地球の全面を蔽ひ、一世紀前に於ける三國同盟對中歐同盟の對抗以上の危険なる状態となつた。

随つて兩同盟各國は、盛んに軍事探偵を放ち、競争的に相手國の真相を探査せしめた。多數の軍事探偵は、相手國の嚴重なる警戒を突破し、有らゆる危険を冒し、有らゆる困難を排して活動し、軍事上政治上其他重要な機密を探つたのであるが、同様に軍事探偵の巧妙なる活動に對する各國の機密漏洩防遏上の警戒も亦頗る嚴重を極め、軍事探偵の檢舉は頗る辛辣なるものであつた。

又た、兩同盟各國は、反對同盟國に對し、國際上の儀禮と稱して一個軍團或は二個軍團の大航空隊を派遣訪問せしめ、或は數百萬噸の大艦隊を派遣して訪問せしめたが、國際上の儀禮といふのは口實で、其眞意は反對同盟國に對する示威運動であり威嚇手段に外ならなかつた。

一八、日本參謀本部の機密書類何者にか盗み去らる

斯くて日獨露伊伯墨支七國同盟對英佛米濠四國同盟の對抗暗闘は益々劇烈となり、相互の軍事探偵は有らゆる巧妙なる手段方法の下に活動しつゝあつたが、〇年〇月〇日、日本政府が愕然として驚き慄然として戦いた一大事件が勃發した。それは參謀本部の機密書類中の機密書類が何時の間にやら紛失して居ることが發見された一事であつた。

當時參謀總長は、軍事上重大なる打合せの爲め渡支中で、支那政府との打合せ

濟めば、西北利鐵道によつて露都に赴き、露國政府を訪問し、更に獨逸と打合せ歸路伊太利を訪問して打合せをする豫定であつたが、機密書類紛失の無線電信に接して大いに驚き支那政府との打合を中止し、倉皇として歸朝した。參謀本部では總長不在中の出来事であるから、次長以下青くなつてしまつた。無論事件は絶對秘密に附せられ、秘密裡に嚴重なる調査を進めたが、紛失は依然として紛失で、參謀本部内の何處にも発見することが出来なかつた。而して調査の結果は外國の軍事探偵の爲めに盗み去られたものであるに相違ないといふ意見に一致したが、盗まれたのは紛失を発見した二日以前でないことは明かであつた。

何にしても事件が事件である、一刻半時も猶豫すべき問題でない。憲兵司令官は直ちに全國の憲兵隊に暗號無線電信を以て事件を通知し、犯人捜査の嚴命を下し、猶ほ警視廳を始め全國の警察に應援を求めた。全國の憲兵隊と警察とは機密

書類が日本の地を離れないうちに犯人を逮捕せんと、相共力して一齊に活動を開始した。

然し犯人は容易に逮捕されなかつた。一週間経つた。矢張り杳として何等の手がかりもなかつた。十日と經ち一ヶ月を經過し、其爲全國の憲兵隊と警察とが寢食を忘れ全力を挙げ最善を盡したのであるが、それでも有力なる嫌疑者さへ檢舉することは出来なかつた。若し盗まれた機密書類が英佛米濠政府の手に渡つて仕舞へば、日本は爆裂彈下に置かれたも同様で、實は日本に取りては致命的重大事件である。

知らず、此の重大犯人は果して何者であらうか。而して又我憲兵隊と警察とは果して其機密書類が外國政府の手に入らざるに先つて犯人を逮捕することが出来たであらうか………?

危険！ 危険！ 日本は今や全滅的敗戦に等しい最大最重の危険の上に立たせられてしまつた。

一九、人種戦の氣運動

國際聯盟瓦解し、世界は二大同盟の對立となり、第二次世界大戦の爆發遠きにあらざるを思はしむる新形勢となり、而も日米間の風雲は益々急を告げ、世界戦の序幕は恐らく第二次日米戦にあるべしと觀測せられ、日米兩國は勿論、對立した二大同盟各國は、競争的に軍備を擴張しつゝあつた時、世界の有色人種は、此の新形勢に應じて、白人に對抗し、其の地位を白人と同等に引上げんとする眞劍の運動が開始された。即ち、世界の有らゆる有色人種が眞劍に覺醒して來たのである。

尤も有色人種が、白人の慘虐に憤怒を懷き、其の暴虐の魔手より遁れんとする運動の起つたことは、何も此時に始めて起つたことではない。白人の有色人種虐待の歴史の古くと同様に古く、人種問題の歴史が古いやうに古い。

黄色人種を筆頭として、黒色人種も褐色人種も銅色人種も、其他の有色人種といふ有色人種は、永い間白人の爲めに慘虐無道の取扱ひをされ、劣等人種として牛馬以上の虐待の下に置かれ、白人の奴隷の如く虐使されて居たが、黄色人種中の日本が、俄然勃興して、世界列強の班に伍し、白人強國をして顔色なからしめ、日本を差置いては流石の英國でさへ世界政策は行はれないといふ、世界國實際上に重要な地位を占めた事實は、世界の有色人種に對する非常なる刺戟となり、次で、第一次世界大戦の巴黎講和會議に日本が人種平等案を提出し、有色人種を白人種と同様の地位に置かんとした努力は、世界の有らゆる有色人種をして

我等有色人種の地位を高め、世界一切の有色人種を白人の魔手より救ひ呉れるものは日本である。白人の爲めに牛馬以下に虐待酷遇され有らゆる暴戾残忍の下に苦しめる世界一切の有色人種を率ゐて白人との人種戦の陣頭に立ち、白人の背人道を膺懲して呉れるものは日本を措いて他にない。といふ日本信頼の聲は、世界の有色人種間に叫ばれるに至つた。

巴里講和會議に始めて日本によつて提出された人種平等案は、六對十二といふ半數以上の賛成があつたにも拘はらず、満場一致でないといふ不條理なる理由の下に否決せられたが、日本が第一回の失敗に屈せず、千九百二十一年ゼノアに於ける第一回國際聯盟會議に再び提出し、再び否決され、爾來聯盟會議の開催せらるゝ毎に人種平等案を提げて戦つた不屈不撓の戦ひ振りは、其都度有色人種を感激せしめ、日本人以外の黄色人種は勿論、世界の有色人種をして、日本を有色

人種の救世主と仰慕し、日本を盟主として世界有色人種の大同團結を作らんとする運動が、殆んど一齊に各有色人種間に起り、各有色人種の團體は其代表者を日本に送り、有色人種同盟の組織に努めた。

日本が聯盟會議の都度、人種平等案を提出して屈しなかつた努力と、これに刺戟されて世界の有らゆる有色人種が眞剣に覺醒し、日本の驥尾に附して擡頭して來た事實と、世界の有らゆる有色人種が、其の代表者を日本に送り世界有色人種同盟を形成せんとした行動は、白人一般に對する大恐慌であつたのみでなく、白人一般に人種戦の氣運が、漸やく動いて來たことを悟らしめ、多年白人が有色人種に對して取つて來た迫害の報酬が、早晚白人の上に加へられる時が來るに相違ないことを痛思せしめ、戦慄せしむるに至つた。

二〇、有色人種の大同團結成る

日本が世界の有色人種の爲め、人種平等案を提げ、有色人種の先頭に立つて白人と戦つた大努力と、それに刺戟され鞭撻され覺醒されて眞剣に目醒めた有色人種の積極的努力との結果は遂に空しからず、日本を盟主とする世界有色人種の大團結は成つた。而して其の團結に加盟した有色人種は、日本が白人國と開戦するやうな場合は、日本の爲めに一齊に蹶起し、日本と一切の行動を共にすべきことを誓約した。

數世紀間、白人の爲めに慘虐を恣にされ、奴隸の如く牛馬の如く酷遇され有らゆる迫害殘忍を加へられて來た世界の有色人種は、斯くて始めて白人間を横行瀾歩するやうになり、白人の前に戰々競々たる意氣地なき態度を一變するに至つた。

二一、米國の日本側同盟切崩し陰謀

然るに、此の日本を盟主とする世界有色人種の大團結は、機敏なる米國をして、日本側同盟切崩しの陰謀をなさしむる好機會となつた。

有色人種同盟の成立は、無論世界が二大同盟對立の新形勢となつた後であるが米國側の同盟國は英佛米濠の四大強國を列ねて居るとは言ふものゝ、日本側には獨逸、露西亞、伊太利、墨西哥、支那、伯刺西爾の諸國が日本の背後に控へて居るばかりでなく、日本には米國にも英佛にもない、石佛博士の發明に成る空中軍艦といふ恐るべき武器があり、而も其空中軍艦は日米戦争の終り頃から製造に着手し、今や龐大なる空中大艦隊が出來て居る、米國が恐れ英佛濠諸國が、日本と

の開戦を恐れて居たのは此の空中大艦隊があるからであつた。然し、二大同盟は早かれ晩かれ火蓋を切る時の來るのは分り切つて居たのであるから、米國側同盟國は、日本の空中軍艦に敵する新武器の發明研究に苦心し、多數の國事探偵を放ち、有らゆる手段方法を以て、日本の空中軍艦の秘密を探らしめたのであつた。無論、日本でも生命と頼む空中軍艦の秘密が米國側に知られては、石佛博士三十年間の苦心發明が水泡に歸するのみでなく、反つて敵國の爲めに利用され、日本で發明された武器で日本が攻撃されるやうな結果となるのであるから、日本では絶對に秘密に附し、日本政府の役人ですら其の關係秘密書類が何處に何ういふ風に秘藏されて居るか知らないものが多かつた。

爲めに流石敵國の機密を探偵する、巧妙なる英佛米濠諸國も、到底其の機密を探知することは出来なかつた。英佛米濠の政府は切齒扼腕し地團駄踏んで口惜しがつたが、また如何ともすることが出来なかつた。

其處で米國側同盟國は、各自國の専門家をして研究させると同時に、莫大なる資金を撒き散らし、不逞鮮人や不逞無頼の支那人を買収して、更らに日本の過激的社會主義者を買収せしめ、其等の手より空中軍艦の秘密を探らしめたのであつた。

然るに、日本を盟主として、白人一切を敵とする世界の有色人種の同盟が成立するや、米國は之れを奇貨として、其同盟國英佛濠と語らひ、日本側の同盟國たる獨露伊伯の諸國に對し、日本は今や世界の有色人種を糾合して、白人全體を敵として戦ひ、白人一切を征服せんとする慘虐なる意圖を有して居る、今次日本を盟主とする世界有色人種同盟の成立したのは、専ら日本の畫策する所であり、日本が世界の有色人種を煽動した結果である。現に貴國は日本と攻守同盟を締結し

て居るが、所詮貴國は日本の爲めに利用せらるゝに過ぎない、即ち日本が我等英佛米濠諸國を征服せんとする爲めの利用物として獨露伊伯諸國と同盟を締結して居るのである。早晚現在世界に於ける二大同盟は、大規模の戦争を開始するに相違ないことは分明の事實で、今日では只だ何時開始せらるゝかの時期の問題のみとなつて居る。而も此の二大同盟が開戦した結果、何れの同盟が勝利を得るかは豫断し得ない所であるが、若し、日本側同盟國の勝利となり、我等英米佛濠が屈伏するやうな結果となれば、日本は必ずや英佛米濠を絶對無力國たらしめなければ承知をしないであらう。獨露伊其他の同盟國が反對しても、日本は極力反對し、遂に少くとも、英佛米濠の手を断ち脚を切り骨を削り、最大無上の慘虐なる方法によりて無力國たらしめるであらう。斯くの如くして而して次に同一の運命に陥らしめられる國は何國か、即ち日本の現同盟國として、日本の爲めに國命を

賭し、多數の國民を犠牲に供した獨逸であり、露西亞であり、伊太利であり伯刺西爾であり、其他同盟國中の白人國である。英佛米濠を征服した後、日本は必ずや世界の有色人種を糾合し、獨露伊伯等自己の同盟國を英佛米濠と同様に屠り盡さなければ置かないであらう。故に日本と人種を異にする獨露伊伯の諸國が、日本と同盟提携して、同じ白人種を國民とする英佛米濠諸國と戦ふは、結局する所、將來に於て日本の爲めに白人國全部が屠られる運命を早めるものであり日本の白人征服を援助し、日本に對して白人征服の便宜を與へ、且つ次に自分をも征服され滅亡せしめられる運命を早めるものであると説き、猛烈なる離間運動を始めた。

其の目的を達せんが爲めには數億の巨費が投せられた。然ういふやうな暗中飛躍に獨特の才能手腕を有する人物は、未曾有の高給によつて選拔され、獨露伊伯

諸國に密かに派遣された。猶獨露伊伯の國民に對しては、幾多の秘密宣傳隊が派遣され、數千萬圓の巨費を投せられた驚くべき多數の煽動的宣傳の印刷物が無制限に撒布された。而して此の日本側同盟切崩しは、米國は勿論、英佛濠其他の諸國も必ず大成功に終るべきを期待された。

二二、果然、日本側同盟動搖す

果然、米國を始め英佛濠諸國の、日本側同盟切崩し運動は、非常の効果を顯し獨露伊伯諸國民中には、同盟國に對する日本の叛逆として人種上より言へば白人國たる英佛米濠と同盟するの本來なる獨露伊伯諸國が、異人種たる日本と同盟せるは、日本の國際的立場に同情し、人種的感情を捨て、利害的打算を犠牲にせるものである。然るに其同盟國に對して叛逆的行動を敢てするとは言語道斷である。

我等は直ちに日本との同盟を破棄し、白人同盟を組織して、日本の有色人種同盟に對抗すべしと主張するものが續々現はれ、政府部内の有力者中にも此の説に賛成するものが出來、日本攻撃の火の手は炎々と燃え上り、國論沸騰して、日本側の同盟は今や瓦解せんとする危険なる動搖状態となつた。

此の形勢を見るや、英佛米濠より派遣された多數の宣傳者は更に大規模に煽動的宣傳印刷物を撒布し、親英佛米濠及灰色の新聞雜誌を買収し、或は反日派の人物を煽動し、盛んに排日氣勢を煽り、同盟破棄を煽動した。其大努力は益々効を奏して、獨露伊伯諸國に於ける排日氣勢は益々騰り、日本との同盟破棄の聲は日に日に高潮した。

孤立すべき當然の理由があつて孤立するのであれば、日本素より孤立を悲しむものでなく敢て辭する處でなく恐るゝ所でない。殊に世界有色人種同盟の成立せ

る今日、白人國より排斥されても、世界の有色人種といふ味方を有して居るのであるから、何もキヤーク騒ぐ必要はない。況んや空中軍艦といふ世界無類の絶對の大偉力を有する新大武器を有し、數百隻の空中軍艦より成る空中大艦隊の完成せるをやである。

然し、孤立すべき當然の理由なくして孤立し、排斥せらるべき當然の理由なくして排斥せらるゝことは面白くない。況んや敵國たる反對同盟國の奸惡なる離間中傷策の爲めに排斥され同盟を破棄され孤立するをやである。

茲に於て、日本では官民一致共力して、反對同盟諸國の切崩し陰謀を無効に歸せしむべく、對抗手段を講ずることになり、曩に成立した世界有色人種同盟の内容一切を提示し、世界有色人種同盟は、一切の白人を敵とするものでなく、有色人種を迫害する白人、人種平等を認めない白人に對抗し、人種平等を實現せし

めんとするを以て目的とする以外、何等の意あるものでない。随つて、白人にして人種平等を認め、世界の有色人種に對し、平等の待遇を與ふるものに對しては、飽くまで親睦主義を以て迎ふるものであることを切言力説するに努めた。

二三、英米佛濠の奸策無効に歸す

日本官民の、同盟に對する誤解を正さんとする大努力と、同盟國に於ける絶對親日派の奮闘努力とは、流石に險惡化しつゝあつた輿論を動かし、漸次誤解より醒め、反對同盟國の離間中傷策より出でたものに過ぎない事實が明白となり、反日主義の新聞雑誌や英米佛濠より入り込んだ煽動隊宣傳隊の反日氣勢煽動運動も一般國民より冷笑を以て迎へられるに過ぎなくなり、英米佛濠が巨億の資を投じて計畫した日本側同盟切崩しの陰謀も、遂に成效せず晝餅に歸して仕舞つた。

英米佛濠の奸策無効に歸す

而して、日本官民より提示した世界有色人種同盟の内容は、却つて同盟國上下の歓迎する所となつた。といふのは、人種平等を認むることは、將來必然的に惹起せらるべき世界的人種戦の慘禍を未前に防止するものであるといふにあつたのである。故に白人國にして日本側の同盟國たる獨露伊伯の諸國並に他の白人、弱國は、世界有色人種同盟の主義に賛成し、人種平等を認むることに申合せ、其等の諸國は聯合の形式を取り歓迎的人種平等主義承認宣言を發表し、各國共に盛大なる人種平等祝賀會開催され、同時に盛んに示威運動が行はれた。つまり雨降つて地固まる結果となつたのである。

二四、米國に於ける日本人大排斥

英米佛濠諸國對日本側同盟との反目は、英米佛濠の日本側同盟切崩しに失敗し

た結果、益々甚だしくなり、英米佛濠側同盟國の日本側同盟國に對する破壊陰謀對敵陰謀は愈々劇烈となり、二大同盟國開戦の危機は、其等の事件毎に、急速度を以て接近した。處が、其後數年を経て、日本側同盟をして震撼させ日米再び開戦すべき重大事件が起つた。其れは米國に於ける日本人大排斥事件である。無論排斥は多く無賴の労働者によつて行はれたのであるが、其の亂暴狼藉なること殆ど言語に絶し日本居留民に對して加へらるゝ侮辱は第一次日米戦の時も遙かに及ばない程の方法によつて行はれた。此の重大事件は日米兩國が再び宣戦を布告する直接原因となつたのである。

二五、機密書類事件迷宮に入る

參謀本部の書類地圖が、一夜何者にか盗み去られた重大なる事件は、重要使命

を帯びて同盟國訪問の途に上つて居た參謀總長をして、急遽支那から引返さしむるほどの重大事件であつたが、そして憲兵隊は勿論、全國の警察をして血眼になつて機密書類の行方、犯人の檢舉に努力せしむることになつたが、其結果は常に間斷なき失敗であつた。

憲兵隊も警察も、反對同盟國の國事探偵らしいものは、片ツ端から嫌疑者として秘密裡に檢舉し、嚴重なる取調べを行つた、併し、最初は犯人らしい形跡があつても、段々取調べて行くうちには、段々犯人らしい形跡がなくなり、いづれも證據不十分を以て放還するの已むなき結果に至るのが例であつた。

横濱で老練なる刑事が、有力なる嫌疑者として目星をつけ、苦心慘愴の末、漸くにして逮捕した一外人の如き、其の平生の行動から推想しても、事件發生當時彼れが東京に在つて、頻りに或る方面に活動しつゝあつたといふ事實から推して

も、また、事件發生後、彼れが、數名の外人と秘密會合を遂げたといふ事實から見ても、其他すべての彼れの態度行動から見ても、犯人は彼れであると思はれた。縦令直接の犯人でないにしても、彼が裏面に隠れて、或者をして該機密書類を參謀本部から盗み出させ、之れを手に入れて、いづれかの方面に廻したものであらうといふ想像は、單に一個の想像でなくて、真相を穿つた想像即ち的中した想像であるべく想はれたのであつた。

此の外人を嫌疑者として檢舉するには、横濱の警察は非常に苦心した、憲兵隊と共力したのみでなく、民間探偵の力も借りて、非常な努力をした。殊に之れを逮捕した刑事は、二十餘年來刑事を奉職して居る老練なる刑事で、横濱の〇〇刑事と云へば、全國の警察に誰知らぬ者もない程に名を知られた有名なる名探偵であつた。而も此の老練なる名探偵が、非常の苦心と努力をして漸く逮捕したと

いふのであるから、其の間の苦心慘愴は蓋し想像するに餘りあると云ふべきである。

そこで、横濱の警察で、一應の取調べをした後、有力なる嫌疑者として、之れを東京の警視廳に護送し、憲兵隊と共力して取調べを嚴重に行つた。

ところが、最初有力なる嫌疑者らしく思はれた彼れは、取調の進行するに従つて有力らしくなくなつて來た、約一ヶ月間取調べた結果は、從來檢舉した嫌疑者と同様、犯人らしい處も、犯人と關係あるらしい所もなくなつてしまつた。即ち證據不充分を以て放還するの已むなき結果に至つたといふ詰らない結果に終つたのである。

其後、神戸で憲兵隊の手に捕縛された賣國奴らしい一日日本人があつた、憲兵隊では、縱令此者が機密書類を盗み出した犯人でなくても、犯人と直接間接連繋が

あるに相違ない、随つて此奴を取調べて見たら糸口が見つかるだらうと云ふ見當をつけて居た。又た其れと殆んど同じ頃に長崎の埠頭で逮捕された前科十八犯の曲者があつたが、此奴の逮捕されたのは、機密書類犯人の嫌疑者としてではなく九州各都市の貴金屬商を荒し廻つた強盜盜犯人の嫌疑者として逮捕されたものであつたが、彼れが宿泊して居た旅館の押入にあつたトランク内に、要塞地帯を撮影した數葉の寫眞と、外人と往復した暗號電報の數通があつた所から、急に此奴こそ參謀本部に忍び込んで機密書類を盗み出した犯人ではなからうかといふ嫌疑が起つたのであつた。

然るに、此の神戸で檢舉された嫌疑者も、長崎で逮捕された前科十八犯の曲者も、取調べの進行するに従つて、機密書類事件には何等の關係もないことが明白になつて、折角張り切つた力瘤が急に抜けて、係官一同恰かも空氣の抜けた護

護送のやうにならざるを得なかつた。

其他、全国各地の憲兵隊警察並に民間探偵で嫌疑者として或は檢舉し、或は數日間尾行追跡、探査をし、多大の費用と努力と苦心とを費した所のものは、悉く徒勞に終り、機密書類事件は遂に迷宮に入つてしまつた。

官憲は、斯くの如く、一方に於て犯人の檢舉搜索に全力を傾注すると同時に、他の一方に於ては、盗み去られた機密書類を國外に持ち出されないこと、及び、該書類の内容を國外に絶対に洩れしめないことに最善を盡した。即ち、電報郵便の一切は一々内容について嚴重なる檢閲を行ひ、少しでも怪しいものは容赦なく一時的に發送を中止し、根掘り葉掘り研究精査し、警察官及び民間探偵新聞記者に内命を下して發信人受信人の身許行動の一切を探査せしめ、怪しいと思はれるものは直ちに拘引して嚴重に取調べを行ひ、電報は如何なる種類のものたるを問

はず、一切暗號を禁じ、封書を禁じた、但し封書とする場合は全部開封とし、密封したものは悉く沒收し、小包郵便の如きは、一々開封して周到なる檢査を行ひ、税關では、郵便物のみならず、出入者の所持品及び身體檢査を行ひ、海軍は全近海を密航して、内國船は勿論、外國船にして日本港灣より發航したもの、日本に向つて航行しつゝあるもの、日本の港灣に寄港しなくても、日本の沿岸より一千哩以内を通航する船舶は、船籍の何れの國に在るを問はず、容赦なく停船を命じて臨檢し、船舶動員令によつて各汽船會社より徵發された無線電信機の設備ある快速船は、警備艦隊司令官の命令下に近海を縦横に航行した。是れは、國內に潜伏して居る犯人と近海航行の反對同盟國船舶との間に無線電信を以て、機密書類の内容に關して通信を行ふ場合を慮つての警備であつた。

又た、引力斥力利用の空中軍艦の數隊は、強力なる無線電信機を搭載して、

海上の軍艦と連絡を取りつゝ、空中を巡航し、犯人と反對同盟國航空機との間の通信を警戒した。そして、此の空中軍艦には、いづれも石佛博士の發明に成れる電波利用空中魚雷發射機を搭載し、若し、地上の犯人と之れと連絡ある航空機とが怪しい通信連絡を行つたことが知れ、空中軍艦より停止を命せられても遁走を企てた場合は、容赦なく破壊すべく命せられて居たのである。

斯くの如く、日本政府は、殆んど人事の一切を盡して機密書類の所在及び犯人を搜索嚴探すると同時に、該書類内容の國外漏洩防止に努力したのであつた。而して此の大努力は數個月間倦怠なく嚴行されたが、機密書類の所在も杳として分明せず、書類を盗み出した犯人も捕まらなかつた。即ち全く迷宮に入つて仕舞つたのである。

僅か一機密書類の爲めに、こんな大騒ぎを爲るといふのは、事少しく大袈裟た

る誹りを免かれないかも知れぬが、是れを大袈裟と笑ふものは、盗まれた參謀本部の機密書類が、何ういふ性質のものかを知らず、如何なる程度の機密を有する書類であるかを知らぬもので、此の機密書類が、反對同盟國の政府の手に握られるに至れば、日本帝國は最早日本帝國としての生命が無くなる。即ち、日本の國防上の一切の機密は、之れが爲めに悉く暴露されて仕舞ふのである。若し反對同盟國が、此の機密書類によつて策戦計畫を樹て、日本に對して戰を行ふとなれば、日本は如何とも爲ることが出来ない、イクラぢたばたしても滅亡の外はない、一億餘の日本國民は、無郷の民となつて世界に放浪するか、敵國の壓制暴虐の治下に永久に泣き苦しむかの外はないのである。

日本は政府も國民も、石佛博士及び其助手十數名の三十年間の苦心研究によつて發明された、引力斥力利用の空中軍艦並に電波利用空中魚雷を唯一の武器と

して特みとして居るが、此の機密書類が、反對同盟國の政府の手に入れば、此の二大新武器の秘密も悉く知られて仕舞ふのみならず、反對同盟國で空中軍艦や空中魚雷を製造することも自由自在である。他の一切の機密が漏洩しても、此の二大新武器の機密さへ漏洩しなければ、日本帝國は永久に安全である。同様に此の二大新武器の機密が漏洩し、反對同盟國の政府に知悉せらるれば、他の一切の機密が、如何に嚴重に機密として保たれても、日本帝國の國防力は零である。況んや此の二大新武器の機密のみならず、他の重要な部分の機密も漏洩するをやで、今次參謀本部で盗まれた機密書類は、即ち此の日本の生命の綱たる石佛博士發明の二大新武器の機密を始め、他の重要な部分の機密を包含着して居るのであるから、日本政府が、有らゆる非常手段を執つて、書類の所在發見、犯人の搜索檢擧、書類内容の漏洩防止に力を盡したのは、大袈裟に騒ぎ立てたのでも何でも

なく、日本政府としては正さに當然の手段であり方法であつたと云はなければならぬ。

二六、參謀本部に又もや大椿事出來

斯くて機密書類事件は迷宮に入つて空しく數個月間を経過し、犯人については殆んど何等の手がかりもなく、機密書類の一部分の所在をも發見することは出來なかつた。

憲兵隊も全国各地の警察も民間探偵も、今や漸やく奔命に疲れるの狀態となり犯人の檢擧は、今や永久に不可能事たるべく思はれるに至つた。

其處で、參謀本部内では、事件の真相について一の疑問が起つたといふのは、斯く官民共力して犯人の搜索書類の發見に努力し、既に數個月を経過したにも

拘はらず、犯人も分らず書類の所在も不明である所より見れば、該書類を盗まれたといふのは誤りで、實は係官の思ひ違ひではないかといふことであつた。尤も斯ういふ疑問は、該事件發生當時早くも起つたことで、參謀本部内では嚴重に調べられたのであるが、其結果は矢張り盗まれたといふのが事實で、係官の思ひ違ひでもなければ、置き忘れでもなく、係官の不注意による紛失でもないといふことになり、さてこそ大規模の搜索探偵となつたのである。

然しながら、イクラ搜索しても探査しても犯人は勿論書類の片影さへも発見されず、手がかりに就ては絶対にナツシングである所から見れば、此の疑問が再び擡頭し再び繰返されるに至つたといふのは、正に當然の成行であらう。

そこで參謀次長以下數名の該事件訊問委員は、係長官以下の係官を再び訊問することになり、參謀本部内の地下室で訊問が開始された。けれども、係官

は幾度訊問されても、イクラ糾問されても、盗まれたのが事實であるから、最初の訊問に答辯したと同様の答辯を繰返す外はなかつた。

兎角して居るうちに、忌まはしい風評が起つた。それは、機密書類事件が數個月後の今日迄、依然迷宮より出でないのは、參謀本部内に賣國奴が居るからだ、即ち犯人は外にあらすして内に在るに相違ない、盗まれたといふのは内に在る犯人が犯罪を胡魔化さんが爲めの手段に過ぎないのでないか、當局は徒らに外部に向つて搜索の歩を進むるより、先づ内部に向つて探査の歩を進めて見るべきである。犯人を外に在りとして居つては恐らく幾年経つても此の事件は永久に解決しないであらうといふことで、即ち、參謀本部内に犯人が潜んで居り、而も其犯人は該機密係將校中の何人かであるといふ風評であつた。

此の風評は、非常な響きを一般民衆に與へた、殊に該事件が數ヶ月後になつて

も依然迷宮より出でないといふ事實は、此の風評を唯だ一片の風評として取扱はず、事實の真相であると断定するものさへ尠くなかつた。新聞の如きも、此の風評は單に一片の無根の風評として聞き流すべきでない、或は事實は此の風評の通りであるかも知れないといふやうな批評を加へ、當局者をして其の方面に注意せしめようとするに至つた。検事局、憲兵隊、警察、民間探偵局などに舞ひ込む然ういふ意味の投書は、日に日に多きを加へ、中には公然犯人は機密係官の誰々であると明記したもののさへあつた。

斯うなると當局官憲も、此の風説を無根の風説として放棄つて置くわけに行かなくなつた、取るに足らぬ道聽途説として一笑に附し去る譯に行かなくなつた。殊に事件發生以來既に數個月を経過したにも拘はらず、依然として迷宮より脱し得ないのであるから、或はと云ふ考が頭を擡げて來ざるを得ない。

其處で、検事局、憲兵隊、警察、民間探偵は、各々連絡を取つて、參謀本部の内部に向つて秘密調査を始めた。紛失した書類係官は勿論、參謀本部に關係あるものは悉く嫌疑の視線内に入れられ、検事局、憲兵隊、警察、民間探偵は盛んに活動し始めた。

斯くて當局官憲の視線が、再び逆轉して外より内に放たれ、官憲の活動が盛んになるに従つて、此の風説は益々有力なるものとして裏書せらるゝ傾きとなつた。

然るに突然、參謀本部内に又もや重大なる事件が勃發した。と云つても何も又もや他の重要な書類が紛失したのでもなく、該事件犯人手がかりが発見されたのでもない。紛失書類係の長官が突然自殺したことのものであつた。

二七、機密書類係長官の自殺事件

參謀本部では、該事件の真相を調査する必要上、最初該書類係官一同を本部内の一室に拘禁して嚴重に取調べ、後ち全く盜難たることが判明するに及んで拘禁を解き、係官一同は自宅に歸ることを許されたが、此の風説の生ずるに至つて再び本部内に拘禁された。斯うなると軍人であるから、係官一同は自分達が犯人扱ひをされて居るやうに感じ、中には身の潔白を證する爲めに、潔く自殺しようとして云ひ出したものもあつたが、多數の意見は、自殺するのは何でもないが、事件が解決しないうちに自殺するのは、恰かも自分達が犯人であるかの如く誤解される原因となる、曇りなき身は必ず何時かは晴れる、俯仰天地に恥ぢない以上、事件の解決する迄我慢し屈辱を甘受するが當然だ、輕率に自殺するなどは責任上

斷じて此際執るべき手段でないといふことにあつたのである。

其れが爲めに責任自殺説は否決されて、身の潔白を證せらるゝ迄甘んじて此の屈辱を忍ばうといふことになつたが、其後幾日も経ないうちに係の長官は柱に頭を打つけて突然自殺してしまつた。一同大いに驚いて應急手当を施したが、萬事既に休矣で、長官の玉の緒は永久に倒れた肉體から離脱してしまつた。

此の事件は、參謀本部でも極秘に附し、長官は依然本部内に拘禁されて生きて居るものとされ、家人にさへも知らせなかつた。ところが二三日経つて此の事件が都下の一新聞によつて書き立てられ、參謀本部が此の事件を秘密に附して居るのは、事件を發表し得ない秘密があるからだとか、或は長官は拷問にかけられた結果死んだので、自殺したといふのは嘘だとか、いろいろの想像臆説を加へて書き立てた。

ところが、一犬虚を吠えて萬犬實を傳ふの類で、都下の一新聞によつて長官の死が報せらるゝや、想像は想像を生み、臆説は臆説を生んで、後には機密書類を盗んだ犯人は長官であつた、長官が死んだのは拷問の爲め責め殺されたのでなくて、良心の苛責に得堪へずして自殺したのだといふ風説が行はれるやうになつた。

果して然るか、果して然るか、機密係長官の自殺は、責任自殺でなくて、果して犯罪の爲め良心の苛責に堪へずして自殺したのであらうか………?

二八、重大迷宮事件の奇怪なる解決

參謀本部の一室内に拘禁されてあつた、機密書類係長官の自殺が、秘密にされて居たのにも拘はらず、突如都下の一新聞によつて世に傳へられて以來、都下

の各新聞記者は、一面參謀本部に押かけると同時に、他の一面に於ては、裏面から事件の真相を握まうとして盛んに活動した。併しながら、各新聞記者の裏面活動は、所詮徒勞であつた、長官が自殺したのは責任自殺でなくて眞に良心の苛責の結果の自殺であるといふ證據即ち自殺長官が眞犯人であるといふ實證については何物をも攫むことが出来なかつた。

すると或日參謀本部の新聞記者係官から、都下の各新聞社並に通信社に對して、長官自殺事件について事實を發表するから、各一名の記者を出頭せしめられたしといふ公式通知があつた。

新聞記者は、是れまで幾度參謀本部へ行つて、根掘り葉掘り聞いても、係官は長官の自殺は責任自殺でもなく、犯罪の結果良心の苛責の爲めにした自殺でもなく、心痛の餘り卒倒し、其時激しく後頭部を床板で打つた爲めに腦震蕩を起

して死んだのであると主張して居たのであるから、此奴はイヨ／＼參謀本部が最早や包みきれずに事實を發表するのだなと思つて出頭した。

果然、各新聞記者の想像は的中して居た。新聞記者係官は、詳細なことは發表する譯に行かぬが、長官の死が、從來發表して居た如く心痛の餘り卒倒し床板に後頭部を打つけ脳震蕩を起して死んだのでなく、長官は實は機密書類を盗んだ犯人で、悔悟の自殺であること丈けを發表する、無くなつた機密書類の所在も明かになり、今日では完全に一切の書類が總長の手許に戻つて居ると發表した。茲に於て機密書類を盗んだ眞犯人は長官であつて、長官の死は悔悟の自殺であつたことが明白になり、全國の新聞は一齊に自殺長官を眞犯人として發表した。

然るに奇怪なことには、參謀本部が眞犯人は自殺した長官であることを公然發

表したにも拘はらず、内々検事局や憲兵隊や警察が活動の手を中止しないのみか、裏面的活動は益々辛辣の度を加へた。新聞記者は勿論、此の事實を薄々知つて居る人々は非常に怪しんだ、事は既に解決された筈である、自殺した長官が眞犯人で、無くなつた機密書類も全部完全に取り戻すことが出来た以上は、最早や此の事件につけて官憲が活動する必要はない、從來加へ來つた電報郵便物に對する嚴重なる檢閲は直ちに撤廢さるべきである、航空隊の活動も海軍の活動も中止さるべきである、船舶動員によつて各汽船會社から徵發した船舶も、直ちに各汽船會社に返還さるべきである、其他該事件の爲めに特に執り來つた一切の警戒捜査の手は撤せらるべきである。然るに、眞犯人も判明し、其犯人は自殺し、一切合切完全に解決された後になつても、依然として同様否なより以上の捜査警戒的活動を繼續するのは奇怪至極である、是れには何か祕密があるかも知れない、或、

參謀本部は眞犯人は自殺長官であると發表したが、實は嘘であるかも知れない、何等かの爲めにする必要上、假りに自殺長官を眞犯人として發表したのかも知れぬ、随つて無くなつた機密書類も全部完全に取り戻したとは云ふものゝ實は未だ所在不明であるかも知れない、それでなければ、検事局や憲兵隊や警察が、内々に活動を繼續する理由がない。斯ういふ疑問は其等の事實を知つて居る人々の頭に絶えず往來した所であつた。

然し當局官憲は、飽くまで其れを否認した、検事局や憲兵隊や警察が内々活動して居るのは、決して曩の機密書類事件に關するのではないと頑張り其れは全然別個の事件に關してあることを主張した。又た空中軍艦や飛行機や海軍の活動は、國防上或る重大なる事實が起つたからで、機密書類事件に引續いて活動して居るのは、該事件と今度新たに起つた國防上の事件とが連續して起つたからに

外ならぬ、局外者から見れば機密書類事件の繼續である如く見えても、事實は決して然うではない、全然別個の新事件の爲めに活動して居るのであつて、目的は全く異つて居ると辯明した。

又た、電報や小包郵便や其他一切の郵便物に對する非常手段などが、依然として繼續せられて居ることは、何うしても機密書類事件が長官の自殺によつて完全に解決されたものと見ることが出来なかつた、其等の事實と綜合して考へて見ても、航空隊や海軍の活動や検事局、憲兵隊、警察の暗中活動やは、新たに突發した國防上の事件の爲めであるとは、何うしても思ふことが出来なかつたのである。

斯う云ふ事件問題に對しては、根掘り葉掘りしてドン底のドン底までも追窮しなければ氣の濟まぬ新聞記者達は、當局の辯明を信せず、競争的に暗中飛躍を試

み、果して當局の聲明する所の如く、機密書類事件とは全然異つた新事件の爲めの活動であるや否やを探究せんと力めた。

けれども、多くの敏腕なる新聞記者の暗中飛躍も裏面活動も、悉く徒勞に終り、何等の事實をも攫むことは出来なかつた。而して、其後約二ヶ月の後、通信上に關する非常檢閲は中止され、檢事局、憲兵隊、警察の活動も確と止み、航空隊や海軍の活動も悉く止んでしまつた。そこで世間は、曩に當局が聲明した通り、機密書類事件は、長官の自殺によつて悉く解決され、該事件後猶ほ引續いて約二ヶ月間行はれた通信上の取締り及び航空隊並に海軍の活動、檢事局、憲兵隊、警察の活動は、該事件とは全然異つた事件異つた目的の爲めに行はれたものであることを承認するやうになつた。

二九、參謀本部廓清の輿論

機密書類事件は、自殺した長官〇〇少將が犯人であるといふことになつて一段落を告げたが、今度は參謀本部廓清の叫びが起つた。

元來參謀本部は帝國陸軍の生命を掌握せるもので、大元帥陛下の參謀本部である、民間の營利會社見たいなものではない、然るに其の參謀本部から、國家を滅亡に陥れんとするが如き賣國奴を出すに至つては言語道斷である、而かも其の賣國奴が、機密書類中の機密書類を管掌する大責任の地位に在る長官であるに至つては更らに怪しからぬ事である。海軍には嘗て軍艦を嚙つて私腹を肥した瀆職者を出し、陸軍方面にも師團の經理部あたりで御用商人と結托して私腹を肥した不逞者があつたが、參謀本部ばかりは、參謀本部出來て以來未だ嘗て瀆職的事

件は起らなかつた、流石に參謀本部ばかりはと國民から信頼されて居つた、然るに其の絶對信用をされて居た參謀本部から、未曾有の賣國奴を出したのは驚くべき重大事件であるのみでなく、參謀本部が既に腐りかけた實證である。自殺長官が居なくなつたからと云つて安心さるべきでない、自殺した長官と同様な、否な其れ以上の大腐敗漢大賣國奴が、何喰はぬ顔して居るかも知れない、今度の事件は機密書類が國外に持ち去られないうちに犯人が自殺し、完全に取り返しが出來たから宜いやうなもの、今後何ういふ大問題が起らぬとも限らぬ、而して帝國陸軍の機密が、何ういふ巧妙な方法手段で敵國に漏洩されるか知れない、國民は現在の參謀本部に從來の如き絶對信用を置くことが出來ない、今度の事件が落着いたのを機會に參謀本部の根本的廓清を行ふことが必要である。多少でも態度行動の怪しむべき者は悉く放逐し、賣國奴の片鱗をも残さないやうにしなければならぬ、參謀總長は直ちに之れを斷行する責任があるといふ叫びが起つた。而して此の叫びは始め都下の或る有力なる新聞によつて起されたが、全國の言論機關は忽ち之れに共鳴し、日々猛烈なる叫びを發した。參謀本部廓清を叫んだものは皆に新聞界のみでなく、雜誌界のみでなく、識者は一人として之れに共鳴しないものはなかつた。中には演說會を開いて叫んだものもあつた。新聞記者團は全國新聞記者聯合大會を東京に開催し、參謀本部廓清を決議し、東京大阪の大新聞の記者數名は委員となり、決議文を齎して參謀總長に會見し、決議文を突つけて根本的廓清を要求した。

三〇、米國新聞の記事日本國民を震駭せしむ

未曾有の大事件として朝野を震駭せしめた機密書類事件が、長官〇〇少將の自

殺によつて、要領を得たやうな得ないやうな、變な妙な解決を爲て間もなく、米國華盛頓で發行されて居る華盛頓タイムスに特筆大書された該事件に關する記事は、日本國民をして再び震駭せしめた。

其の記事は、日本の參謀本部は空中軍艦空中魚雷其他に關する重要中の最重要なる機密書類を何者にか盗まれ、爾來官憲は世界的未曾有の峻嚴なる方法手段によつて書類の行方犯人の搜索を行つて居たが、有力なる嫌疑者として參謀本部の一室に拘禁され取調べを受けて居た係長官が突然自殺し、當局は自殺した係長官を犯人として發表し、是れによつて數個月間迷宮に入つて居た該事件は完全に解決したと言明して居るが、實際は決して然うでない、該事件は依然迷宮に入つたまゝになつて居る、當局が自殺した〇〇少將を以て犯人であるとして發表したのは、一般國民を欺き胡魔化さんが爲めであつた、該事件が〇〇少將の自殺

によつて胡魔化されて居ることの證明は、該機密書類の一切が既に數月前我米國政府の手に收められて居ることによつて疑問とする餘地はない、今や我米國は、某國人によつて日本の參謀本部より盗み去られた機密書類を數千萬弗の高價を拂つて買収するを得た結果、日本が世界的に誇り、絶對秘密とするに苦心して居た石佛博士發明の空中軍艦並に空中魚雷の秘密を知悉することが出來た、我政府は既に軍器製造所に命じ、數萬の空中軍艦及空中魚雷發射機を製造しつゝあるといふ記事であつた。

華盛頓タイムスは紐育タイムス、桑港タイムス、市俄古タイムス等と共に米國五大タイムスと稱せられ、其言論の權威あることは倫敦タイムスと並稱されて居る米國新聞界の覇者である、而も此の權威ある大新聞に此の記事が現はれたのであるから、日本の一般民衆は實に愕然として驚かざるを得なかつた。若し此の

華盛頓タイムスの記事の如く、日本の參謀本部が盗まれた機密書類が、米國政府の手に入つて仕舞つて居るとすれば、〇〇少將の自殺は參謀本部が發表したやうに悔悟の自殺であつたか何うかは頗る疑問である、縱令眞に悔悟の自殺であつたにしても、機密書類は全部取り戻したといふのは全然嘘であつたことになる、完全解決されたと云つたのは國民を偽つたもので、華盛頓タイムスの謂へる如く國民を胡魔化さんが爲めの空々しい嘘であつたことになる。

日本の新聞といふ新聞は蜂の巢を叩き散らしたやうに騒ぎ出した。而して政府に對して事實一切の赤裸々なる發表を迫つた。否な獨り新聞界のみでなく、全國民は悉く政府に對して事件の真相を悉く告白せよと肉薄した。

然し此の事は數日後になつて全然虚報であつたことが分明した。華盛頓タイムス紙上に然ういふ記事が掲載されたことは確かに事實であつたが、日本の參謀本

部で盗まれた機密書類が米國政府の手に握られたといふことは根も葉もない嘘であつた。

米國の代表的大新聞であるのみでなく、倫敦タイムスと共に世界の新聞たる華盛頓タイムスともある權威ある新聞が、何うして斯ういふ事實無根の捏造記事を掲げたかといふ理由は、日本には分らなかつたが、是は要するに日本に空中軍艦並に空中魚雷といふ世界無比無類の絶對的新大武器あるを羨み妬んで居た米國が、日本の參謀本部に機密書類盜難事件突發し、官憲が未曾有の大規模な非常手段に訴へて搜索探査して居る事實より見て、是れは適乎空中軍艦及空中魚雷に關する機密書類を盗まれたものだらうと想像し、一番驚かして遣れといふ惡戯に過ぎなかつたのである。そして其の惡戯も華盛頓タイムス記者の惡戯心から出たのでなくて、政府部内の極端なる排日論者がやつた仕事であつた。

然し、事實は華盛頓タイムスの記事にあつた如く、機密書類事件は未解決の儘になつて居た。政府當局は自殺した長官〇〇少將が犯人であるとして發表したが、事實は〇〇少將は犯人でも何でもなかつた。そして盗まれた機密書類は完全に參謀本部の手に入れることが出来たといふことになつて居るが、是れ亦た實際は嘘であつた、全部は愚か一枚一片たりとも取り戻しては居なかつた、依然として行方不明の儘になつて居たのである。犯人が何人であり何者であるか、不明であるが如く、盗み去られた機密書類の所在は一切不明であつた、随つて犯人が逮捕されないやうに書類も亦た一小部分も手に入つては居なかつたのである。然らば政府は何故然ういふ虚偽の發表をしたか、何必要ありて犯人でもない〇〇少將を犯人であるとして忌まはしき罪名を着せたが、何の必要あつて未解決のものを解決したと云つて居るか、何の爲めに未だ行方不明の書類を全部完全に取

り戻したと稱したか、斯くの如き重大なる事件を斯くの如く變手古な處置をして有耶無耶に葬り去つたに就いては、日本政府としては必ずや意味なくして遣つたものではあるまい、已むを得ないからといふ理由の爲めに爲たものではあるまい、是れには何か相當の理由があり目的があつて遣つた事ではなくてはならぬ。果して日本政府にして何等かの理由の爲めに何等かの目的の爲に遣つたものとするれば、其の理由なるものは何か、其の目的は果して如何なる目的であらうか：………。

三一、驚くべき透視鏡の發明

日米間の國際的關係は、日に日に險惡の度を加へ、米國に於ける日本人排斥は益々猛烈となり、米探は日本の到る處に到らざるなく跳梁し、日米再戦は何時勃

發するやも測り知れず、日米兩國國民共に日米の再開戦は到底絶對に回避すべからざるものと思つて居た矢先、突如參謀本部の機密書類盜難事件が起り、其筋も必ず米探の仕業に相違ないと目星をつけ、有らゆる非常手段を以て犯人の逮捕書類の行方を搜索したにも拘はらず、而も殆んど半歳の久しきに亘つて搜索されなにも拘はらず、犯人の手懸りもなく、書類の行方も分らず、悉く迷宮に入つて仕舞つた結果は、參謀本部機密書類係長官〇〇少將の自殺となり、犯人は自殺長官で書類は全部取り戻し得たと發表され、該事件は落着した形になつたが、事實は依然迷宮に入つた儘で、犯人も分らず書類の行方も杳として分らず、當局官憲も殆んど途方に暮れて居た時、驚くべき透視鏡といふものが發明された。

透視鏡の發明は、機密書類事件とは、何等の關係もない事のやうであるが、實は此透視鏡の發明によつて、久しく迷宮に入つて居た機密書類事件が急轉直下のに解決されることになつたのである。

三二、不思議なる透視鏡の作用

そこで此の透視鏡なるものは一體如何なるものであるかといふに、是れ亦た石佛博士の發明した空中軍艦や空中魚雷と同様世界無類の驚くべき科學的發明で、
X光線の様な作用を有つたものであるが、X光線よりも遙かに進歩したものである。機械の構造は極めて簡單なもので、其の大きさも普通の双眼鏡位しかない。而して双眼鏡は使用する場合手に持つて居なければならぬが、此の透視鏡は帽子に取り付ける仕組となつて居る、即ち山高でも中折でも鳥打でも其他如何なる種類の帽子でも構はぬ、兩の耳の上で蔓の一端で挾めば、帽子を被ると同時に眼鏡は丁度普通の眼鏡を掛けたやうに兩方の眼の前に來るやうになつて居る。

而して此の眼鏡を掛けて見れば壁でも鐵板でも透して其内部にある物を明瞭に見ることが出来る、地下室に隠れて何事かを爲して居るのでも、一度此の眼鏡を掛けて見れば、誰が何を爲て居るかといふことが分る。金櫃の中に何が這入つて居るかも分る、家の内で誰が何を爲て居るかも掌上の物を見るやうに分る、X光線の如く人體内をも透視することが出来る、如何なる物體でも此の眼鏡で透視し得ないといふものはない。

そして又た、家の内に人間が何うして居るか何事を爲て居るかを透視しようと思つたら、其家の戸なり壁なり唐紙なり障子なりを透視するレンズを挿入し、金櫃を透視しようとする場合は金櫃の外部となつて居る物體を透視するレンズを挿入し、土中に在る物を透視する場合には土壤岩石等を透視するレンズを挿入し、煉瓦や石材を以て築かれた物の中に在る物を透視せんとする場合には煉瓦や石な

どを透視するレンズを挿入すれば、直接見ると少しも相違する所なく明瞭明白に透視することが出来るのである。

而かも此の透視鏡は、單に總ての物體を透視し得るのみではない、距離によつて透視を加減することが出来る、即ち、透視を一間以内に止めようと思つたら、一間以内に制限することも出来る、十間十五間以内に止めようと思つたら十間十五間以内に止めることも出来る、百間二百間の先まで透視しようと思つたらそれも出来る、千メートル二千メートルの遠距離まで透視しようと思つたら其れも自由である。

例へば高い煉瓦塼の内に何があるかを透視する場合は、煉瓦塼丈けを透視することを得れば可いのであるから、然ういふ場合は、其煉瓦塼と自分との距離が二間半あつて、煉瓦塼の厚さが一尺あれば、二間半と一尺即ち十六尺迄の物體を

透視し得る程度に制限すれば、自分と煉瓦塼との間に如何なる物體があつても構はない、其等の一切の物體を透し、煉瓦塼をも透して、塼の内の物體を悉く一目瞭然と視ることが出来る。

若し又、戸締りの爲である家で其家人が室内で何を爲て居るかを透視する場合には、先づ表戸を透視して見て、中に唐紙なり障子なりが締つて居たら、更に距離を延長して其れを透視し、次に壁があつたら更に距離を延長して壁を透視し、其室に何人も居なかつたら、更に他の室内を透視するに適した丈け透視距離を延長又は短縮すれば、遠近いづれの室内でも自由自在に透視することが出来る。

斯くの如く、此の透視鏡の前には如何なる物體と雖も、障礙物たることを得ない、如何程厚い鐵板でも石壁でも、一度此の透視鏡に會つたら即ち硝子と同様の否なそれ以上の透明體となつて仕舞ふ。否、透明體となるといふよりも、全然無

存在状態となり、消滅状態となると云つた方が適當である。

而も其の透視鏡の有効透視距離はと云へば、之れは器械の大小、レンズの度、レンズとレンズとの中間に置かれた肝腎要の部分の機械の大小等によつて何處までも延長することが出来る、其點は從來の望遠鏡と同様であるが、普通眼鏡の如く帽子に取りつけて使用するものは約一哩である。而して普通の双眼鏡と同じく近距離であればある程透視状態は明瞭である。一哩以上の遠距離を透視せんとする場合は、望遠鏡の如きレンズを嵌入しなければならぬのであるから、機械の容積はそれ丈け大きくなり、構造もそれ丈け複雑になるのである。

三三、發明者は泥棒志願の一青年

而かも斯くの如き偉大なる發明は何人の手によつて完成されたか、單に斯う云

ふ驚くべき眼鏡が發明されたとき聞いたら、百人が百人千人が千人、何人と雖も其は必ずや物理学専攻の大博士か、有名なる天才發明家であらうと思ふであらうが、實は物理学専攻の博士でもなければ有名なる天才發明家でも何でもなく、事もあらうに泥棒を志願して居た一青年によつて發明されたのであつた。石川五右衛門を科學的に行つた大泥棒になつて思ふ存分活躍しようといふ大それた考へを持つた、即ち科學的大竊盜たらんとする大野望を起した一青年によつて完成されたのであつた。

透視鏡其物が既に不思議なる發明であるのに、之れを發明した人物が、學者でなく發明専門家でなく、泥棒を志願した青年であつたといふことが復た一の不思議である。

三四、透視鏡發明の動機

茲に於て、何人も一の大なる疑問に逢着せざるを得ない問題が生ずる、それは即ち透視鏡といふが如き不思議なる眼鏡が、學者や發明専門家によつて發明されず、何故泥棒を志願した青年によつて發明されたか、また其の泥棒志願の青年は、何ういふ動機から然ういふ偉大なる發明を完成するに至つたかといふことである。此の疑問は恐らく天下何人も詳細に聞かんことを欲する所であらうと思ふが、予輩も亦た是れに就いては詳細なる叙述を爲す必要があり義務があると信ずる。處は高野山を以て有名なる紀州の〇〇郡××村の水呑百姓の家に生れた朝川龜一といふ一少年があつた、彼れは村の小學校を卒業して二三年兩親の手傳ひをして蚯蚓切りや糞掘みをやつて居たが、彼れは其の全生活を寒村の水呑百姓として

終るには餘りに野心家であり、餘りに非凡の人物であつた。

彼れ朝川龜一は、父や母と一緒に野良仕事に出て鋤や鍬を持つて田畑を耕して居ても、彼れの腦中を往來するものは家業上の事でもなければ、仕事を終つて自由の體になつたら何處へ遊びに行かうかといふやうな農村青少年に有り勝な事でもなかつた。又た現に作りつゝある麥や大根や牛蒡などがより良く出来て呉れば宜いと云ふやうなことでもなかつた。彼れは日本一どころか世界一の大泥棒になつたといふことであつた。

世界一の學者になりたいとか大實業家になりたいといふやうな希望ならば兎に角として、事もあらうに世界一の大泥棒になりたいなどといふ希望を持つに至つては、不丁見の骨頂で、到底絶対に感心することの出来ないことであるが、彼れとしては漠然と然ういふ不逞の希望を持つたのではなかつた、彼れは彼れとして

然ういふ不逞の希望を抱くに至つた已むを得ない理由があつたのである。

彼れは小學時代も其成績は決して優秀な方ではなかつた、何れかと云へば中以下の成績で、鈍吉といふ綽名さへ附けられて居た程であるから、極めて氣の利かない野呂々々とした少年であつたことは、それで全部を説明して居る。そして彼れは鈍吉といふ綽名をつけられても罵倒されても冷評されても冷然として居た。無神経か馬鹿か氣にしないのか、兎に角彼れは如何なる罵言を浴せかけられても如何なる冷評冷笑を以て愚弄されても殆んど頓着しなかつた。只だ或場合には世界中の苦虫を一人で噛み潰したやうな苦り切つた顔をしたり、又或る場合には薄馬鹿の如くニタ／＼笑つてばかり居るといふ風で、馬鹿だか伶俐だか正體の知れない少年であつた。

同胞は四人あつて總領が男で次が女、四番目が男で彼れは三男であつた。随つ

て彼れの兩親は彼れの將來に對しては餘り大なる期待を持つて居なかつた、否な期待どころか殆んど彼れの將來は問題にして居なかつた。只だ親の情として、彼れが成長の後兄弟の厄介にならず獨立して生活して行ければ何よりの上出來た位に思つて居たが、それ以上彼れに對する希望としては何物もなかつた。

彼れは野良に出て土を掘り返したり肥料を掘んだりしながらも、人生といふことについて切實に考へた、世の中といふこと、人間の一生といふこと、立身出世と云ふこと、名譽だとか財産だとかといふやうな問題について考へた。毎日々々土を掘りながら、肥料にまみれながら、然ういふことを根掘り葉掘り繰返し巻返し考へた。そして彼れが遂に到達した所の結論は斯うであつた。人間といふものは、人間夫れ自身では萬物の靈長だの超動物だのと云つて居るが、それは所詮人間が勝手につけた理窟に過ぎない、人間に都合の宜いやうにした獨り快がりの解

釋に過ぎない。人間は丁度腐つた南瓜に生えた黴のやうなものだ、人間の住んで居る地球は謂はゞ南瓜で、人間は其れに發生した黴だ、腐れ南瓜に生えた青黴や白黴が、乃公は萬物の靈長だなどと云つて威張つたら随分滑稽なものだらう、人間が地球の上に生えた黴でありながら萬物の靈長だと獨り快がりを爲て居るのを神の目から見たら随分滑稽にも馬鹿らしいものだらう。第一人間は何の爲めに生れて來たかも分らないではないか、働く爲めか苦しむ爲めか、樂しむ爲めか、只だ茫乎生きるのが目的であるか、人間の先天的に賦與された目的が何であるかさへ人間には分らないではないか、昔からいろんな學者共が人間の目的についていろ／＼の説を吐いて居るが、所詮それは勝手につけた理窟に過ぎない。そんなことを考へると斯うして紀州の山奥で土を掘つたり糞を掘んだりして一生水呑百姓で終るのは詰らない、寧ろ東京なり大阪なり、大都會に出て思ふ存分何かやつて

見たい、併しそれにしては今日の世の中は金だ黄金だ、黄金力のないものは手足がないより悲惨だ、黄金力さへあれば何んなことでも出来る、然うだ乃公が今から一生懸命になつて金を溜めて見た所で、一生のうちに百萬の金は到底間違つても出来つことはない、百萬は愚か一萬の金だつて怪しいものだ。して見ると金を得る唯一の近道は泥棒になるに限る、人が働いてウンと溜めて居るものを夜陰に乗じて忍び込み、黙つて失敬すれば働かずして一代に巨萬の富を積むことが出来る、世間には國家の爲めに妻子を棄て親兄弟を棄て、異域萬里の地に在つて生命を投げ出して戦つて居る忠良の軍人に石塊の鐘詰を食はして金儲けをした者が、日本の代表的實業家だの富豪だのとチャホヤされ華族に列せられて時めいて居るものもある。また國家國民の爲めだと稱して國家の政治を食物にして私腹を肥し權勢を恣まにし爵位勳等の手盛りをして天晴國士政治家面をして納まつて居るものも

尠くない、其他正義人道を表看板として内々悪事を働いて居る政治家や實業家や學者紳士は世の中にウヨクとして居る、つまり名目さへ善ければの世の中である、看板さへ堂々として正しければ陰では何をやつても構はぬ世の中である、詰り偽善の世の中である。神様や佛様を材料に使つて金儲けをするばかりか、自分自身生神様だ生佛様だと稱して愚かな人間を欺き、金儲けをする世の中だ。悪い事をする奴は金を儲け財産を作り紳士だ淑女だ蜂の頭だと云つて贅の澤を吐し、正直に眞面目に働く人間は何時も貧乏で虫族同様の取扱ひを受け、世の中からは貧乏人だ馬鹿だ間拔だ愚物だと冷笑され、一生浮ぶ瀬はない。考へて見れば樂も一生苦も一生、泣いて暮すも一生なら面白可笑しく暮すのも一生だ、所謂善事をしたからと云つても死後の名譽と云ふ詰らない割の悪いものを貰ふに過ぎない、其子孫だつて必ずしも世の中から優待好遇されるとは定つて居ない。悪い事を爲たか

らと云つても死んで仕舞へば善い事を爲たものと何の擇ぶ所はない、只だ名譽不名譽と云ふ相違があるばかりで、是れさへ無形のものに過ぎぬ、死んだ後の無形の名譽や不名譽は痛くも痒くもない、そんなものなんか何うだつて構はない、要するに我々の欲する所望む所は生きて居るうちの幸福だ、死後の名譽より生前一杯の酒だ。否な生前の百杯千杯の酒だ。真面目に正直に正しい事を爲ても貧乏する位なら寧ろ世間から何と云はれても泥棒になつて汚れたる巨富を擁して紳士面富豪面を爲て世の中を我物面に振舞つて居る奴等の財産を、片ツ端から無斷借用してやらう。然うだ、それが痛快な乃公の仕事だ、乃公の立身出世は世界的大泥棒になるにあるんだ。是れが彼れの結論であつた。

併しながら、只だ普通世間並の泥棒の如き方法手段では到底世界一の大泥棒たるは愚か、日本一の大泥棒になることさへ不可能である、そこで彼れは世界一の

大泥棒となる最も安全にして最も迅速有效なる方法手段は何かといふことを考へた結果、幾ら嚴重に警戒され戸締りされた家でも外から一見して直ちに内部の一切を透視し得る眼鏡を發明することが一番近道であり安全であり迅速有效であると思つた、折角苦心慘憺して忍び込んでも案外失敬する金品がなくては詰らない骨折りになる、非常な危険を冒して破壊した金櫃の中が空ツぼうで、何物も無いと云ふやうでは詰らない、取る金がなく品物が無い丈けならまだ我慢も出来るが、それが爲めに家人に發見され警官に捕縛され、何年間といふ長い間監獄に打ち込まれ、娑婆から隔離されるやうでは泣き面に蜂以上の馬鹿を見ることになる。又た家人が熟睡して居るだらうと思つて忍び込んだ所が意外にも目を覺して居て聲を立てられたり組付かれたりして捕まるやうでは尙更詰らない、そんな事では一生下らないコソ、泥棒で終り世界的大泥棒たることは出来ない。そこで何うして

も此の家の内には金があるか何うか、家人は熟睡して居るか何うか、今家人は何を爲て居るか、家内には何ういふ警戒が施してあるか、邸内の様子は何うか、何處に何が在つて何處に何が在るか、然ういふことを外から一目見たばかりで明瞭に看取し得る眼鏡を發明することが必要である。然ういふ眼鏡を發明すれば、絶対に無危険であり安全であり、無駄骨折りをすることがない、目的は必ず常に完全に達せられる、此奴は是非透視鏡の發明をする必要がある、と云つて學者や發明家に話せば、其れを發明すべき目的を話さねばならず、露骨に正直に話して仕舞へば、忽ちそんな怪しからぬ不正な事をする目的の爲めにそんなものを發明考案することは眞平だと來るに定つて居る。然う考へると矢張り自身自身に工風し發明する外に途がない。

茲に於て、彼れ朝川龜一は、世界的な大泥棒たらんが爲めに透視鏡の發明を完成しようといふ考を起した。然し紀州の片田舎に居て百姓仕事を爲て居たのでは到底發明の研究は出來ない、斷然郷里を去つて發明の研究に便宜の多い東京へ行かなければならぬことが痛切に考へられた。

彼れは一日兩親に對つて自分を東京へ遣つて呉れと嘆願した。龜一少年の此の嘆願には兩親も兄弟も大いに驚かされた、否、驚かされたといふよりも、寧ろ呆れて開いた口が塞がらなかつた。彼の兄は呆れて龜一の顔を見詰めて居る父と首俛れて父の前に坐つて居る龜一とを見比べて口を切つた。

「龜一、一體お前見たいなものが、生馬の目を抜くといふ東京なんぞへ行つて何をするつもりだ。」

龜一は平然として言下に答へた、

「何を爲るつもりだと云つて、そりや勉強してウンと偉い人間になるつもりです。」

「お前はそんな偉い人間になれると自分で思つて居るのかい？」

「思つて居るからこそ東京へ遣つて下さいとお願するのです。」

「馬鹿を吐せ、そりや貴様の考へ違ひだ、考へて見ろ、小學校さへ満足に出来ず漸とのことで落第もせず卒業した者が、東京なぞへ行つて勉強したところで、偉い人間になるは愚か、喰ふことだつて出来つこはありやしない、そんな馬鹿な了見方は止めて、柔順しく家に居て百姓して居れ、お前見たいな馬鹿は東京へ行つても乞食になるのが關の山だ。」

「イエ何と云つても私は東京へ行きます、お父さんお母さんや兄さんが許して下さいならなりや、私は逃げて行きます、金なんか鑑一文要りません。身體一つで結構です、汽車に乗れなかりや徒歩で行きます。」

父も母も姉も交々口を酸くして説き諭したが、鑑一の決心は頑として動かすこ

とは出来なかつた。両親も兄姉も呆れて仕舞つて、それでは手前の勝手にしろと匙を投げてしまつた。

鑑一少年は着替の二三枚と讀み古した書籍の二三冊と其他の細々した手廻り品とを風呂敷に包み、それを振分けにして、或日の朝、生れて以來十八年、住み馴れた故郷の地を去つて都の空へと足を向けた。

彼れが愈々家を出るとなると、流石に父も母も兄も姉も弟も涙で別れを惜んだ、彼れが折角東京へ行つても身の成る果てが悲惨なものだといふことを想像し信じ切つて居ただけに尙更可愛想に思はれた。そして父も母も兄も姉も、村外れで愈々別れる時は、

「鑑一や、東京へ行つても歸りたかつたら何時でも然う云つておいで、汽車賃は送つてやるから……」

と繰返しく幾度も言つた。彼れは再び故郷の地を踏まないと決心して居たので、只だ『有り難う』と云ふ一語を以て答へたのみであつた。そんな事より彼れの胸中には透視鏡の發明といふことのみが往來して居たのであつた。

三五、十有五年間の苦心研究

都會育ちであれば、十八歳にもなればモウ色氣づいて若い女の臭ひを嗅ぎ廻る年頃であるが、紀州の片田舎に生れ、村の小學校を卒業して、蚯蚓切りと糞掘みとを日課として育つた彼れ龜一少年は、殆んど山猿に等しいものであつた、而も其の山猿然たる野暮な人間が日本一の都會東京にやつて來たのであるから、イクラ透視鏡發明の熱に燃えて上京したとは、云へ、中央停車場へ列車から吐き出され、幾千臺の自動車縦横に馳驅奔走して居る停車場前の大廣場に出た時は、

ブーツとして馬鹿見たいにならざるを得なかつた。

斯うして東京へ出て來た龜一少年は、最初の半年といふものは筆紙に盡し難い慘苦を嘗め盡した、尋常人では到底堪へ得ない苦しい勞役に従事して生活の途を立てた。彼の手はさゝらのやうになり、彼れの足は熊の足のやうになるまで、彼れは勞働した。然し其間に彼れは彼れの目的として居る透視鏡の研究發明といふことは忘れなかつた。

聽て彼れは其の慘憺たる勞働界から救はれる時が來た、と云ふのは不圖した事から、帝國大學の物理學の講座を擔任して居た當時有名なる理學博士に知られ、其の邸に引取られることになつた事の夫れであつた。

朝はまだ、夜の明けないうちから、夜は十二時一時迄も苦しい勞働を爲て居た境遇から、博士の書生となつたことは、謂はゞ非常なる幸福で、地獄から極樂に

救ひ上げられたも同様であつたが、然し彼れはそれに満足して安逸を貪るやうなことは斷じて爲なかつた。

彼れは勞働して居た時と同様、朝は夜の明けないうちに床を出て、博士から借り受けた物理学の書を読み耽つた。晝も暇さへあれば讀書をした、夜は矢張り一時過ぎ迄も勉強を續けた、而して時々深夜博士に祕密で博士の邸内に在る實驗室へ出掛け、種々な物理学上の實驗を爲た、單に書籍の上で勉強するのみでなく實驗的に勉強した。

彼れは殆んど一切の世事を忘れて仕舞つて物理学の研究、透視鏡の發明に没頭した。彼れの頭は透視鏡の研究發明といふ事以外には何物もなかつた。餘りに研究に熱中した爲め、博士や家人から吩咐かつた肝腎の用事を忘れ、フラリと外へ出て譯もなく歩き廻り、又たフラリと歸つて來て、其の用事を訊かれてハツと氣

の付くやうなことも屢々あつた。或は用事を忘れて特許局の特許品陳列館などへ入り、半日も歸りを忘れ、歸つて散々お目玉を頂戴することなどもあつた。或は主家の用事と自分の用事とを取り違へたり、或は命せられた使先へ行かず、飛んでもない人の所へ行つて、先方に怪訝な顔をされて漸く氣がつき、這々の態で逃げ出すなどの失策は度々あつた。

處が主人の博士は、それも彼れが學術の研究に熱中する結果だといふことを知つて居たので、一應は叱言を云つても、決してそれが爲めに放逐するやうなことはしなかつた、龜一々々と云つて寧ろ我子の如く可愛がつて、毎日一時間宛は彼れの爲めに講義をして呉れた程であつた。

そして龜一少年は、深夜竊かに彼れが博士の實驗室に忍び込んで、いろ／＼の物理的實驗を行ふことは、博士には些しも分るまいと思つて居たが、或日彼れは

博士から、

「龜一、お前は何月何日の何時に、實驗室で斯ういふ實驗を行つたらう、何月何日の何時には斯ういふ實驗をやつて居たね。」

と一々月日から時間から何ういふ實驗を爲たといふことまで言はれて吃驚した。龜一少年は非常に驚いて、

「先生はそれを何うして御存じです、僕は確かに先生の被仰る通り、先生へ無断で實驗室でいろ／＼の實驗をしましたし、其實験も今先生の被仰つた通りですが、先生は其時は何時もお寝みになつて居たではありませんか、私は先生が能くお寝みになつて居るのを見届けてからでなければ實驗室へは行かないやうにして居たんですが、それをチャンと先生が御存じで居らつしやるといふのは實に不思議ですね、何うしてお分りになりました。」

と聞いた。すると博士は莞爾して、

「何うして乃公がそれを知つて居るか、口で説明するよりも、今お前が事實の上で成程と合點の行くやうに爲て見せよう。」

と云つて、博士は令嬢を召んで、實驗室へ行つて、何か機械を弄くつて見よと命じた。令嬢はハイと云つて去つた、暫くすると、博士の机の上にある四角な眞黒の鐵箱の中で鈴が鳴り始めた、而して其箱の蓋が自動的にピンと開いた、見ると令嬢が實驗室の扉を開けて這入つて行く姿が明かに箱の中の鏡に映つて居る、龜一は呀と驚いたが、猶よく見て居ると、令嬢が笑ひながら室内を歩き廻つて何を弄つてやらうかと迷つて居る所から、聽て硝子戸棚を開けて一つの茶色の藥瓶を取り出し、それを實驗臺の上に立て並べられた小さな試験管の中へ入れる一舉一動が悉く明瞭に映る、そして令嬢が戸棚から取り出した藥瓶に貼つてあるペーパ

一に書かれた薬名の文字まで明かに映つて居る。

「何うぢや龜一、是れで分つたらう。」

と云つて博士はニコ／＼笑つて居た、龜一は只だ驚異の眼を見張るより外はなかつた。博士は龜一の驚いた顔を見ながら、徐ろに機械の説明を爲て聞かせた。龜一は博士から此の機械の説明を聞いた時に、自分が目的として居る透視鏡の發明も決して不可能の事ではないといふ確信を抱いた。

斯くて彼れは博士の許に在つて殆んど十有五年間透視鏡の研究に没頭した。然し彼れは何人にも其事を語らなかつた、彼れに取つては唯一人の大恩人たる博士に對してさへ一切何事も語らなかつた。

無論其の十五年間の研究中、多くの發明家が經驗する所の如く、幾度か失敗を繰返した。失敗しては研究し、失敗しては研究し、時に或は到底不可能ではない

かを思ふことさへあつたのであるが、石佛博士は三十年間秩父の山奥に立籠つて苦心慘愴遂に宇宙の引力斥力を利用した空中軍艦を發明し、又た同時に電波利用の空中魚雷の發明を完成した、それを思へば自分の研究年月は其半ばにも達しない、十年や十五年の研究に失敗したからと云つて匙を投げるやうでは到底偉大なる發明を完成するとは出来ない。而も自分が目的として居る透視鏡の發明は、石佛博士の空中軍艦や空中魚雷に較べて劣るものではない。只だ其れを使用する目的が、石佛博士は國家の爲めであるとするは、只だ其れを世界的大泥棒にならんが爲めとの相違あるのみである。彼れは國家奉仕の爲めであり、我は自己奉仕の爲めである、國家奉仕が善であつて自己奉仕が悪であるとするれば、自分の透視鏡は惡の爲めの發明であるかも知れぬが、偉大なる發明といふ點に於ては何等相違する所はない。否、善惡などの問題は何うでも可い、愈々乃公が透視鏡を發明して

大活動を開始したら、世間の奴等は呀と驚くだらう、從來だつて少し科學的知識ある泥棒が二三度少し氣の利いた窃盜をやると官憲も世間も着くなつて騒ぎ立てるのが例だ、其れに較べると乃公の透視鏡と來たら、世人の夢想だも爲なかつた事だから、世間も官憲も恐らく震駭するだらう。神出鬼没どころの話でない。殊に富豪だの金満家だのと云ふ連中の恐慌は今から想像しても思ひ遣られる。さうなると乃公の多年の宿望通り、公乃は忽ち一躍して日本一の大泥棒となり世界無比無類の大泥棒になることが出来る、其時の得意痛快は、恐らく世界を征服した以上の得意であり痛快であらう。彼れは斯う云ふ理窟をひねくつたり空想を描いたりして萎縮しかけた勇氣を自ら鞭撻した。彼れは斯く發明の完成した時の事を描いて失敗した時の落膽と苦痛とを自ら慰めるのが常であつた。

若し斯う云ふ事を世間の人々が知つて居たら、世人は必ずや彼れを評して一種

の發明パラノイアとして取扱ふ以外、殆んど何等の尊敬も拂はなかつたであらう。否な恐らく冷笑を以て葬り去られ、一顧だも與へるものはなかつたであらう。彼れは斯くて十五個年間苦心に苦心を重ね、慘憺に慘憺を積んで、遂に彼れが三十四歳の秋目的を貫徹し、透視鏡の發明に成功した。實驗に取りかゝつて、思ふ通りの結果を見、自由自在に萬物を透視し得る偉大なる成績を見たとき、彼れは嬉しさの餘り、其處ちうを子供のやうに踊り廻つた。

彼れは更に之れを實驗すべく、深夜、博士の邸を脱け出し、丸の内の東洋銀行の前へ行つて、銀行内に据付けてある大金櫃の中を透視して見たが、鐵筋コンクリートと天然石との二重になつた二尺餘の厚い壁を透し、更らに柱や厚いコンクリートや石の中壁を透し、テンプルや書類棚や其他室内に置かれた器物を透し五重になつた大金櫃を透して、其内に一滿詰められた紙幣の束や革袋に這入つた

金貨銀貨などの幾百萬圓の金を見た時は、彼れは餘りの痛快さに『痛快！痛快！成功々々大成功！』と夢中になつて大きな聲で叫んだのであつた。彼れは更に大會社、大銀行、大商店を片ツ端から透視して見たが、何れも自由自在に透視することが出来た。

三六、全世界の富は今や我が手中に在り

透視鏡の發明に成功した朝川龜一は、一夜、上野公園の國民望樓の絶頂へ昇つた。此の國民望樓といふのは、何人でも自由に昇つて眺望することの出来る公開された民衆望樓で、一千万の東京市民の寄附によつて建てられたもの、其の高さは四キロメートル即ち四千メートル約一里の高樓である、一度此の望樓の頂上に登つて目を四方に放てば、人口一千餘萬を包擁せる二十里四方の大東京の全

市街は一瞬の裡に收めることが出来る、整理された數百萬の夢は眼下に見ることが出来るのであるが、是れに昇るには時間の制限は一切ない、晝たると夜たるとを問はない、いつ何時たりとも随意の時に随意に自由に昇ることが出来る。そして昇るにも一錢の料金も拂ふに及ばぬ、即ち口ハで昇ることが出来る。昇るにも降るにも階段を昇降するなどの面倒はない、十數個のエレベーターが備へつけられてあつて、それで昇降することになつて居る。但しエレベーターは昇降者各自に操縦することになつて居る。望樓と云つても、大正年間にあつたやうな消防用の望樓のやうなものではない、何しろ高さが四千メートルからあるのであるから、其の大きさも上野の高臺の殆んど全部を占領する大建築物で、階數も三百階を算し、各階には世界の珍らしい物産の陳列室もあれば娛樂室もあり、便所化粧室浴場は素より、醫院病室の設備まである、是等の各室は建物の中央部にあつて、數十の

全世界の富は今や我が手中に在り

大廊下は縦横に通じ、窓に面した側は四方共に二十五間幅の大廊下になつて、眺望を恣にするもの、通路になつて居る、そして又数千の窓には一々數個宛の望遠鏡が備へ附けられてあつて、昇つたものは無料で其望遠鏡を使用することが出来る、頂上には四個の大望遠鏡があつて、是れによつて見れば二十里四方の大東京の隅から隅、蟻の匍つて居るのまで分る。實に到れり盡せりの設備である。透視鏡の發明者朝川龜一青年は、此の望樓の頂上に昇り、果しもなく建て續いて居るかの如く見ゆる數百萬の薨を眺めたが、此の時の彼れは實に感慨無量であつた、十五年前紀州の片田舎から飛び出して來た時の彼れは、此の望樓を仰ぎ見るほどの時間さへもなく、朝の暗いうちから夜は深更まで、骨身を碎くやうな苦しい勞働に没頭し、それでも人間らしい生活さへ出來ない哀れな人間であつたが十有五年間の苦心研究を経て宿志たる透視鏡の發明を完成した今日を思へば、

轉た隔世の感なき能はずであつた。

夜は既に深更である、大東京一千餘萬の人々は寂寞たる夜の垂帳に被はれて、今や全く夢と眠とに耽つて居る。金櫃も眠り金も眠り人も眠り一切の建築物も眠つて居る。東京の人と云ふ人、物といふ物は悉く眠つて居る。併し此の大東京の一千餘萬の人々の所有する金のみでなく、日本全國の富豪金満家者流の擁して居る富は今や悉く我が手中に在り、彼等が警戒に警戒を加へ、現代科學の粹を傾けて築き上げて居る石、煉瓦、コンクリート、鐵材の塙も壁も柱も扉も其他一切の物も、我が今日只今完成した透視鏡の前には、最早や何等の權威もなく何等の價值もない。今眠りと夢とに耽つて居る大東京一千萬の何人と雖も、深夜此の望樓に佇立せる朝川龜一が世界の何人も夢想だも爲ない透視鏡を發明し、世界的大泥棒たらんとする大志を抱いて居ることを知つて居る者はあるまい。否、然うい

ふやうな偉大なる發明が、現代に於て發明さるべきことも殆んど考へた事すらないであらう。世の富める輩は、在來の盜賊に對してさへ戦々兢兢として居る、多少科學的頭を持つた泥棒が、數個所の富豪や金持ちを荒したことが新聞にでも現はれると、彼等は戦慄し、戦々兢兢として警戒の手を更に緊張させて居る。然るに此の朝川龜一が、透視鏡を提げて愈々天下の富豪荒しに取り掛つたとなつたら彼等は殆んど爲す所を知らないであらう。彼等は如何にして此の天來的泥棒を防止するかを思ひ悩み、神經衰弱に罹るであらう、或は氣の小さい輩は發狂するかも知れない。其れを思ふと過去十五個年間の苦心慘愴も、微笑を以て一切抹殺しても惜しくはない。乃公は最早や過去の苦しかつた辛かつた一切の歴史を今日今夜此處に悉く忘れてしまつて、新たなる世界的大泥棒の生活に入らう。彼れは四千メートルの望樓の絶頂の大廊下を歩きながら、脚下に眠れる大東京數百萬

の夢を俯瞰しながら、斯う心に叫び斯う決心したのであつた。

三七、日本帝國の危殆、朝川龜一の心機一轉

ところが、世界的大泥棒志願の朝川龜一が、翻然として心機一轉する時が來た。彼れは生れて三十四歳の今日迄、未だ曾て國家奉仕とか社會奉仕かと云ふ觀念を有つたことはなかつた。否、彼れがまだ紀州の片田舎に在つて小學校に通つて居る頃には、國家奉仕を教へられ社會奉仕を誨へられて居たので、彼れは鵜呑みに國家奉仕社會奉仕の觀念を有つて居た。けれども彼れが小學校を卒業し、兩親の手傳ひをして野良仕事に従事しながら、人生問題を考へるやうになつて、曾て教師から注入された國家奉仕社會奉仕の觀念は段々影が薄くなつた、而して彼れが世界的泥棒たらんことを目的として故郷を去り、東都の地を踏んだ時は、既

に已に彼れの頭には國家も社會も無かつた、其時の彼れは極端なる個人主義者であり利己主義者であり、極端なる享樂的自己満足主義者であつた。無政府的社會主義者の如く、現在の國家社會を破壊しようなどといふ、考へは毛頭有つて居なかつたが、彼れは眞面目に正直に世渡りをするのは馬鹿の骨頂である、大善たらすんば大惡たらん、我は大善たらんより寧ろ大惡となつて太く永く生きんと云ふに在つた、然し尋常一様では惡となつて太く永く生きるとは到底不可能である、大惡となつて而も太く永く生きるには到底尋常人の企及し得ない獨特の何者かを占有しなければならぬと云ふ所から透視鏡の發明を思ひ立ち、爾來十有五年、苦心慘憺を積んで遂に目的を達し、透視鏡の發明を完成したのであつた。

されば彼れに取つては國際問題の如きは問題でなかつた、日米間の風雲が何う動かうが、日米の國交が危機に瀕しようが、其んな事は全然眼中になかつた。國

際聯盟が瓦解しようが、世界が二大同盟の對立とならうが、其結果が世界戦亂とならうが、彼れに取つては隣家の犬にさかりがついた程の問題にもならなかつた。随つて米國を始め米國の同盟國たる英佛濠加諸國が日本に對して何う云ふ態度を以て莅み、如何なる行動を開始しようが、殆んど一顧を與ふるほどの價值も必要もないものと高を括つて居た。參謀本部の機密書類行方不明事件が突發した時も彼れは其んなことは乃公の關知したことでない、犯人の逮捕や書類の行方搜索は官憲がやる、其んな事の爲めに憲兵隊や警察がある、民間探偵や新聞記者などが官憲の尻馬に乗つて首を捻つたり搜索したりすれば、忽ち解決する問題だ、何も吾々如き無關係の門外漢が與り知る必要はない、世間の奴等はワイ／＼騒いで居るが、あれは野次馬騒ぎだ、今に段々熱が冷めて來ると騒げと云つても騒がなくなる、と云ふ位にノホホンで居た。

ところが機密書類事件は迷宮に入つた儘容易に解決せず、當局官憲が全力を挙げ、民間探偵まで懸命になつて活動しても犯人も捕らざる書類の行方も分らず、而も其書類が外國の手に入れば、日本の機密は悉く暴露し、日本帝國は忽ち滅亡し、一億の日本國民は無郷放浪の民とならなければならぬ。迷宮から迷宮へ入つた結果は機密書類係長官〇〇少將の自殺事件となり、自殺長官が犯人で書類は全部參謀本部に取り戻したと云ふことになつて是がついたが、華盛頓タイムスは突如該事件が未だ迷宮に入つたまゝ解決されて居らぬことを素破抜き、其書類は全部米國政府の手に握られて居る、日本は最早や幾らヂタバタしても其書類を取り戻すことは到底絶對に不可能である、と云ふ記事を掲載し、日本國民を驚かし世界の人々を驚かした、其後間もなく其れは虚構捏造の記事だと判明したが事實該事件は依然として解決されず、迷宮に入つた儘になつて居ることが分つた。

〇〇少將の自殺によつて悉く解決したやうに政府當局が發表したのは一時の胡魔化し手段に過ぎなかつたことが暴露した。而して當局は依然寢食を忘れて書類の行方と犯人とを嚴探して居ることが分つた。

此の事が朝川龜一に分つた時は、丁度彼れが透視鏡の發明に成功し、天空を摩する上野の大望樓の絶頂に昇り、大東京を俯瞰しながら痛快を絶叫した其の翌日であつた。

彼れは此の國家の由々しき大事を知るに及んで忽として心機は一轉してしまつた。極端なる個人主義利己歡樂追求主義で、國家も社會も念頭に置かなかつた彼れも、矢張り日本人であつた、彼れの全身の脈管に流れて居る血は矢張り日本人の血であつた。彼れは目下行方不明となつて居る機密書類が國家存亡の關はる重大なる機密書類であり、一億國民の運命を左右する書類であり、一朝不幸にし

て此書類が國外に持ち去られ、外國政府の手に渡れば、日本帝國の運命は只だ暗黒あるのみで、而も今日迄の搜索の結果より見れば、或は遂に外國の手に渡らないとも限らない、必ず之れを國外に出ないうちに発見し得るといふことは到底斷言し得ないと云ふ危機に迫つて居ることを思つたとき、彼れの心頭に潜在して居た愛國心は勃然として頭を擡げた、彼れの全身の血管を流れて居る血球に潜んで居た忠君愛國の熱は猛然として發した。生れて三十四年始めて沸騰した彼れの愛國的熱血は、世界的大泥棒たらんとする大悪の目的を抛棄せしめ、其れが爲めに使用せんとして苦心慘憺の結果發明した透視鏡を、迷宮に入つた機密書類の行方と犯人との搜索發見の爲めに國家に捧げんことを決心せしめた。

三八、朝川青年の疾風の行動

心機一轉大泥棒志願より熱烈なる愛國家に變節改論した朝川龜一は主人博士の自動車に飛乗るが早い、自ら運轉して全速力を以て大學に駆けつけ、講義中の博士に應會し、國家の一大事出來せり、事件の内容は機密に屬するを以て歸邸の上實驗室に於て詳細陳述すべし、講義なんか抛棄つて直ちに自分と一緒に御歸りあるべしと、未だ曾て見たことのない朝川の權幕に面喰ひ啞然として居る博士を拉して自動車に押込むか否や、再び全速力を以て邸へ歸つた。途中幾人かを轢倒し跳ね飛ばしたが、國家熱にメートルの跳ね騰つた朝川の眼中、そんなものはなかつた。

歸邸するや直ちに博士を實驗室に連れ込み、今日迄の一切を打明け、博士にも知らさず十五年間かゝつて發明した透視鏡を國家に捧げ、現下の危機たる機密書類の行方と犯人搜索の用に提供せんと決心した旨を語つた。博士は朝川の熱辯を

一句一語熱心に聴いて居たが、朝川が語り終るや、博士は突如朝川に抱きつき、
 『朝川！ 君は實に偉い奴ぢや！ 世界的大泥棒たらんことをやめて、透視鏡を
 國家に捧げんとする君は實に國家の恩人ぢや、必ずそれで機密書類の行方も犯人
 も発見される！ さア朝川、私も一緒に行く、參謀本部へ行かう！』
 博士は帽子も冠らず、朝川と一緒に實驗室を飛出し、又もや自動車に飛乗つて
 驀然に參謀本部へ駆けつけた。

三九、參謀本部の士氣復活す

朝川を連れて參謀本部に駆けつけた博士は、自動車を飛降りるが否や參謀總長
 に面會を求めた。平民的參謀總長の名を以て知られて居た參謀總長は、直ちに副
 官をして博士等を特別應接室へ案内させた。博士と朝川が應接室へ這入るか這入

らないうちに參謀總長は反對側の扉を排して悠然と這入つて來た。先づ初對面の
 簡單な挨拶が済むと、博士は口を切つた、

『時に、突如ですが、例の機密書類事件は、事實未だに解決して居ないと思ひま
 すが、實は今日貴官にお目懸つたのも其件についての事ですから、一切ぶちま
 けて真相を聞かせて下さい、イヤ吾々は絶対に祕密を嚴守します。』

總長は頗る當惑氣な顔で、
 『處がです、此事件に就いては遺憾ながら明白に真相をお話しするといふことは
 何うも困りますから……』

容易に語りさうにない、博士は語氣を鋭くして、
 『其の困るといふお言葉は、之れ直ちに該事件の真相が曾て新聞に發表された所
 と相違して居ることを立證して居るではありませんか、私は單に其の真相を承

はりたいと云ふ希望の爲のみで態々お訪ねした譯ではありません、若し事實未だに解決して居ないとすれば、此處に居る朝川龜一の発明した驚くべき器械を使用して直ちに遅くとも一週間以内に書類の行方を発見し、犯人を逮捕したいと思ふからです。』

參謀總長の眼は急に光りを帯びて來た、そして

『其の器械と有仰るのは、一體何ういふ器械ですか、無論博士が驚くべきと云ふ形容語を冠せられる位ですから、必ずや驚くべきものだらうとは思ひますが。』と口早に訊いた。其處で博士は、朝川の今日迄の一切を偽りなく物語り、十五年間の苦心研究によつて発明を完成した透視鏡について説明し、朝川も亦た透視鏡の原理及び使用方法について詳細なる説明を試みた。

總長は飛び立つばかりに喜んだ、早速實驗して見たいと云ふので朝川は透視鏡

をテーブルの上に置いた、總長は朝川の云ふ通りにして使用して見ると實に只だモウ驚嘆する外はない、參謀本部内の各室は素より、地下室の状況まで明瞭に看取される、又隣接した陸軍省、海軍省、空軍省などの内部まで一々鏡に映して見るよりも明かに透視される。擴大子を捻れば數丁離れた海軍省内の人々の髻まで一本々々數へられる程に明瞭になる、部内各室のテーブルの上に置かれた種々の書類の細字までも讀める、總長は只モウ驚嘆するの外はなかつた。總長は五分間と経たないうちに態度一變し、

『ヨ一シ、では祕密を打明けます。實は御推察の通り迷宮に這入つたまゝ、依然として解決して居りません。書類の行方も分らなければ犯人の見當さへついで居りません。然し此の器械一つあれば大丈夫です、必ず発見されるに相違ありません、國家の爲め朝川さん一番大活躍を爲して下さい。御差支もありませんが博士も是非

朝川さんと御一緒に活動して頂きたいのですが。』
と本音を吹いてしまつた。無論博士も快諾し、茲に博士と朝川青年は迷宮に這入つた機密書類の行方と犯人を捜索すべく大活動を開始することになつた。

四〇、博士邸内實驗室の秘密作業

博士と朝川兩名は、參謀總長の承諾を得、且つ總長の懇請により、愈々大活動を開始することになつたが、遺憾ながら直ちに活動を開始する譯には行かないことが發見された。

といふのは、朝川發明の透視鏡は僅かに一個しかない、而も其の一個も透視距離二哩以内のもので、これを使用しては充分でない、大活動を行ふには少くとも百哩からの透視距離のあるものでなくてはならぬ。二哩や三哩の透視距離では、

朝川の從來の目的の如く泥棒用としては差支ないが、日本全國に亘つて機密書類の行方を捜索し、犯人の檢舉を行ふには餘りに透視距離が短かい、これでは縱令空中軍艦に乗つて飛び廻るにしても一週間以内で解決することは頗る困難である。そこで博士と朝川は博士邸内の實驗室に立籠り、百哩以上の透視距離を有する透視鏡を成るべく多數製造し、幾組にも分れて捜索區域を分擔しようといふとに決定し、參謀總長と協議の上、參謀本部專屬の眼鏡技師數名を借り、茲に愈々透視鏡製作に取りかゝつた。

素より秘密作業であるから、作業所には實驗室へは博士と朝川と技師以外の者は何人も出入を嚴禁した。豫定は三日間に十個を製造することになつて居たが、さて實際に取りかゝつて見ると、然う手取り早くは出来ない、幾ら眼鏡技師だと云つても、透視鏡と普通双眼鏡とは大いに趣が異つて居るので、技師の仕事

もナカ／＼進捗らない、博士も襯衣一枚になつて働いたが、何うも思つたやうに來ない。各部の器械は技師数名が拵へ、朝川と博士が之れを組立てるといふ風に分擔してやつて見たが、技師の不熟練の爲めに器械の各部分が完全に出來ない。一つが良ければ一つが悪く、二つ良ければ三つも四つも役に立たないものが出來ると云つた具合、博士も朝川も技師等も閉口したが、何しろ始めての事であるから仕方がない。

朝川は斯處ことでは到底三日間に三個を拵へるのも難かしいと思つたので、自分一人で全部を製作して見ようとして見たが、それでは尙更仕事が出来ない。博士が手傳つてやつて見ても矢張り思ふやうに出來ない。

斯うなつては仕方がない、一生懸命やつて見て出來なかつたらそれ迄である、一つでも二つでも出來る丈けを拵へることにした。縦令一個しか出來なかつたに

しても百哩以上の透視距離のあるものであるから、それでも大丈夫一週間に捜索の目的を達し得るのである。

四一、長距離透視鏡の完成

博士邸内實驗室に於ける祕密作業は、殆んど日に夜を次ぎ、各々最大能力を發揮して行はれたが、技師不熟練の爲め完全に出來上つたものは僅かに一個しか無かつた。尤も出來た数は六個からあつたが、實驗して見ると故障が出て満足な結果を得ない。と云つて豫定の三日間には改造する餘裕がない。已むを得ない、完全に出來た一個を以て直ちに活動に取り懸る外はなかつた。

四二、二愛國家の献身的活動

博士と朝川は、三日間に少くとも十個以上を拵へる積りであつたのが、僅かに一個しか完全なものが出来なかつたのは、頗る遺憾であつたが、其旨電話を以て参謀總長に通じ、活動準備が整つて居るか何うかを確かめた。参謀總長の返事によれば、活動上の一切の準備は昨日既に完全して居る、空軍省から傳令用小型空中軍艦を提供することになつて居る、透視鏡さへ完成すれば只今からでも活動に差支ないやうに準備してある、そして其空中軍艦には空中魚雷發射機も据付が濟んで居るから、場合と必要とによつて空中魚雷を使用することも出来る準備が爲てあるといふことであつた。

そこで博士と朝川青年は、出来上つた長距離透視鏡と曩に拵へた短距離のものを持つて自動車で参謀本部に赴き、空軍省から差廻された空中軍艦に乗り込んだ。

艦長の出發の合圖と共に運轉士の右の手が動いたかと思ふと、一萬噸の大艦體は音もなく搖ぎもなくスーツと地上を離れ、一直線に昇騰し始めた。

博士も朝川も、空中軍艦に乗つたのは今度が初めてである、大きな軍艦や汽船に乗ると同じ心持ちのものだらうと思つて居た豫想とは全然異り、何の事は無い、自分達が昇騰するのでなくて大地の方が落ち行くやうな感じであつた。軍艦や汽船のやうな機關の音響もなければ動搖もない、疊の上に坐つて居ると少しも違ひはない。而も其の昇騰する速さに至つては實に驚くべき速さで、地上を離れたなと思ふうちに早くも一千メートルの上空に昇騰した。

先づ第一に東京全市を搜索することにし、軍艦は一時間百哩の速力で一千メートルの高度を保ちつゝ、市街の上を縦横に駆け廻つた。朝川は長距離透視鏡を持ち、博士は短距離透視鏡を持ち、朝川は左舷に、博士は右舷に、各同方面を分擔

し、透視鏡を操縦しつゝ一切の建築物は素より、地下百尺の處まで、一寸一尺の部分と雖も見通さないやうに、瞬もせず透視した。

空中軍艦が東京の空を飛ぶことは、東京の市民に取りては何の珍らしさも感じなかつた。恰度汽車がレールを走り、電車が日夜街上を走る位にしか思つて居なかつたので、此の空中軍艦が果して何の目的を以て東京の空を縦横に馳驅して居るかについては殆んど考へて見ようとすものすらなかつた。目に止つたものは只だ今日も空中軍艦が飛んで居るなと思つた丈けに過ぎなかつた。

朝川青年と博士は空中軍艦の上から、東京の隅から隅まで残る隈なく透視鏡下に照して見たが、機密書類の行方については、遂に失望するの外はなかつた。

「先生、東京市内には目的物はありませんね」

「ムウ、無いやうだね。是れ丈け綿密に捜査して、見當らない以上は先づ無いも

のとする外はあるまい。」

「ところで先生は、一體何ういふ方面にあるものと想像なさいますか？」

「さうさね……。」

「私は田舎ではなくて、何うしても繁華な都會だと思ひますが。」

然うだ、俺も然う思ふ。」

「では先づ都會のみを鏡検することにしませう、而して遂に何れの都會にも發見し得られなかつたら他の方面を捜査しませう。」

「然うしよう。」

東京に犯罪人も書類もないことを鏡検によつて確かめた博士と朝川青年は、全國の主要なる都會を鏡検することに決定し、空中軍艦は艦首を轉じて西に向ひ、東海道沿線の都會を鏡検しつゝ大阪京都神戸を精査し、中國、四國を経て九州の

各都市を探查すべく、一千メートルの上空を砲弾の如き速度を以て航走し始めた。博士と朝川は依然透視鏡より眼を離さず、送迎に違なき脚下の都邑村落を緻密に鏡検しつゝ、身は西へくと運ばれて行つた。

四三、日米商會は實は米探の機關

日米平和克復後間もなく、日米間の眞の親善提携を圖るには、先づ兩國間の經濟的親善提携を實現するにありと云ふを標榜して、突として日米商會なる大會社が米國に於て起り、紐育に本社を置き、日本に於ては東京、横濱、神戸等に支店を設置し、其他東洋の各要地に支店或は出張所を設け、本支店出張所間は私設無線電信を以て通信連絡を取り、大規模の貿易行動を開始した事實については既に述べた。又た此の日米商會なるものが表面經濟的日米親善を圖るにあり

と稱しては居るが、其實恐るべき陰謀團體であることも述べた所であるから、讀者は該商會の性質については既に略了解せられて居る筈と思ふ。而して彼等が何ういふ事を爲し、何ういふ方法手段によつて其の得た所のものを本國に通信して居つたかも大體分つて居る筈である。

簡単に云へば、日米商會は、日米の經濟的親善を圖るを以て目的とすと云ふを表看板をして實は日本の機密を探知するを唯一の目的とした米探團の假面であつたのである。

彼等は日本の支店は主に日本人を事務員として採用する規定を設け且つ夫れを實行して居た、是の規定は眞に日米親善を圖る上に於て、米國商會の日本支店員に米國人を使用しては米國の商會が米國內に支店を置くのと同様で日米間の眞の諒解は得られない、米國の商會の支店にせよ、日本國內所在のものには矢

張り其國人を使用しなければならぬと云ふのにあつた。

ところが、此の巧妙なる日米親善策は實は、彼等が日本官憲並に一般日本人を胡魔化さんとする口實に過ぎなかつた。彼等は此の如何にもと思はれる標榜によつて巧みに日本の官憲を胡魔化し、日本の政治家實業家學者などの名士有力家階級を胡魔化した。そして一般社會の人々を巧みに胡魔化し偽り欺いた。

斯くて巧みに日本官民を欺き胡魔化した彼等は、事務員として採用した日本人を通じて日本の機密を探り始めた。事務員として採用した日本人を通じて云へば、事務員として採用された日本人は、悉く彼等の爲めに忠良なる犬即ち米探となり、日本國民としては断じて容すべからざる國賊となり賣國奴となつたかと云ふに、實は必ずしも然うではなかつた、事務員として日米商會日本支店に勤めた日本人は、彼等の忠良なる犬とならず米探となる意志なくして而も彼等の爲め

に忠良柔順なる犬となり米探となり賣國奴となつたのであつた。

茲に於て一の大きな疑問が発生する、即ち米探たる意志なく賣國奴たる意志なくして而も米探となり賣國奴となつたと云ふのは大なる矛盾ではないか、其意志なきものが然うなるべき筈がないではないか、果して事實、米探たる意志なくして米探となり賣國奴となつたとすれば、其れは何ういふ理由であつたか、彼等米探は如何なる手段方法によつて、米探たる意志なき日本人事務員をして米探行爲を働かしめたか。

米探たる意志なきものをして米探行爲を働かしめたと云ふことは、常識的判断を以てすれば、實に不思議不可解と云ふの外はないが、彼等は、實に不思議不可解と云ふべき巧妙驚くべき方法を以て日本人事務員に米探を働かしめたのであつた。

然らば其の不思議不可解の巧妙驚くべき方法とは何か？。

四四、巧妙真に驚くべき日本人米探化手段

日米商會を組織し、美名の下に日本に食ひ込み、日本のあらゆる機密を探知せんことを企圖した張本人は、米國紐育大學の心理學教授として世界に喧傳されたエール博士であつたが、彼れは、此の大陰謀を企圖計畫し、日米商會を組織しても、彼れが元兇であり張本人であることは米國人さへも知らなかつた。彼れは自分の部下をして心理學應用の巧みなる方法によつて日米商會を組織せしめ、有力なる人物を商會の幹部に引入れ、其の裏面に自分が隠れて居つて巧みに絲を操つて居ると云ふことは絶対に知らしめなかつた。彼れは日々大學の教室に立つて心理學の講義をしながら、龐大なる日米商會を己れの手足の如く動かし操

縦した。併し何人が見ても彼れが大學に毎日出勤して心理學の講義をして居る所を見ては、彼れが裏面に於て、然ういふ大事業をやつて居ようとは何うしても思はれなかつた。何う見ても彼れは心理學の研究と講義以外には何事も出来ない、極めて無融通の學究としか見えなかつた。否、實際、世間からも然う云ふ風に解せられて居たのであつた。

ところが彼れは、其麼融通の利かぬ學究ではなかつた。白髪を以て蔽はれた彼の頭のの中には非常な野心が炎々と燃え沸々と煮立つて居た。彼れは世界的に何事かを爲さんとする野心があつた。その大野心を遂行する手段として、彼れは自己の専攻たる心理學を基礎として巧妙に有効に他人の精神を束縛する方法を研究し、數年間秘密に研究して遂に目的を達した。

其の方法は催眠術の更に一段進歩したもので、如何なる未知の人物でも會見し

たが最後、自分の意志に服従せしむるとの出来る驚くべき方法である。只だ他事を話しつつ、あつて而も相手の精神を自分の支配の下に置いて仕舞ふ。従來の催眠術の如き何等催眠的手段方法を施す必要はない、此の人物を自己の意志通りになさうと思つたうち、話しながらでも他方を向いて居ても、人の話を聞きながらでも心の内に一種の呪文のやうなものを唱へれば、相手方は無意識に自分の意志がなくなつて其人の意志通りに服従するやうになつて仕舞ふ。而して其の状態は施術者が解放の暗示なり命令なりを與へない限り殆んど永久に繼續する、少くとも一年以内に覺醒するといふことは絶対にない、一年に一回位其の無言の方法をやつて置けば覺醒して反旗を翻すやうなことはない。實に偉大なる心理學上の發見であり、實に驚くべき人心變化術である。

エール博士は、其の最も信頼する部下の一人に此の秘法を授け、本店の幹部は

勿論店員として採用するものは、一々最初に引見して人格變換術を行ひ、日本支店監督の名を以て日本に渡航して、先づ知名の政治家實業家に面接し、此の方法を行ひ、支店員として採用する日本人に對しては採用する際に此の方法を行ふべく方畧を授けた。

そこで、エール博士の股肱として博士より殆んど絶對信頼を受けた博士の部下は、博士より人格變換の秘法を授かり、先づ米國本店の幹部非幹部全員に此の方法を行ひ、日本に渡來して面接する知名の政治家、實業家、學者識者に對し、片ツ端から人格變換術を行つて人格を變換せしめ、日米商會を絶對に信認せしめ、愈々東京、横濱、神戸、大阪等の各要地に支店を開設するに當り、其の募集に應じて來た日本人事務員に對しても悉く最初に人格變換術を行ひ、彼れの藥籠中のものでしてしまつた。日米商會日本支店の事務員として働いて居たも

のが、悉く米探たる意志なくして米探行爲を働いたのは實に其れが爲めであつた。彼れは時々業務監督の名目を以て各支店間を巡廻し、全事務員に對し、覺醒せしめないやうに一々無言の暗示命令を與へて居つた。支那方面に於ける支店員に對しても、彼れは同様の人格變換術を行つて忠實なる米探たらしめたのであつた。

斯くの如き方法手段によつて彼れは日本人を米探化し、斯くの如くして日米商會は日米の經濟的提携を名として米探行動を逞うし、日本の政治、軍事、生産業其他一切の機密を探知し、巧妙なる暗號方法により、或は無線電信、或は文書を以て一々紐育本社に密報し、遂に參謀本部の機密書類室より、機密中の機密に屬する部分の書類全部を盗み取り、日本官民を震駭せしめたのである。知らず、彼等は果して如何なる手段方法によりて警戒嚴密蟻の這ひ出る隙間も

ない參謀本部の機密室より重要書類を盗み取つたのであらうか……？。

四五、機密書類行方不明の真相

日米商會が、米探として暗中に飛躍し、探知し得たる大小幾多の政治上軍事上其他の機密を紐育本店たる米探本部に報告しつゝ、遂に我が參謀本部の機密書類室より、空中軍艦空中魚雷其他機密中の機密に屬する重要書類を抜き取つたことは既述したが、其の抜取りの手段方法の巧妙に至つては、實に驚嘆すべきものであつた。いでや彼等が如何なる手段方法によつて巧みに抜き取り、そして如何にして其罪跡を晦ましたかを語らう。

エール博士より人格變換法の祕術を授つたエール博士の部下は、日本に渡來し朝野知名の人物に會見して信認援助を得、日米商會支店設置に大成功を收め、

表面日米間の經濟的提携親善を圖ると稱しながら、巧みに日本人社員をして米探行動を爲さしめたが、彼等が唯一最後の目的とした所のものは、云はずと知れた國防上の機密であつた、殊に空中軍艦及空中魚雷に關する機密書類を手に入れんとするにあつた。

然しながら、最初から其の方面に活動しては日本の官憲に怪しまれ覺られる恐れがあつたので、彼れは比較的急ならざる方面から手をつけ、相當の時日を経て、日米商會の行動に關しては、何人も疑懼の眼を向けなくなつて來た頃を見はからひ、彼れは愈々最後の目的物たる機密書類抜取りの運動に取りかゝつた。

彼れが參謀本部の機密書類を盗み出した手段を説く前に、參謀本部の機密書類室の構造について少しく述べて置く必要がある。そんな事は茲には不必要な事のやうであるが、實はそれを知つて居なければ、彼れの抜取り手段や韜晦手段が

如何に巧妙であつたか、分らないから、是れは是非先知問題として述べて置かなければならぬ。

參謀本部の機密書類室と云ふのは、門外漢の想像も及ばないほどの嚴重なもので、普通の泥棒などが忍び込んでも絶対に盗み出せるものでない。否、雷に泥棒のみでなく、參謀本部の勝手を知つたものでも、機密書類室に忍び込んで書類を抜取るといふことは先づ絶対不可能と云つてよい程に嚴重を極めたものである。何しろ參謀本部の機密書類は、參謀本部の生命であり國防上の機密を記載したもので、其の内容が外間に漏洩すれば、之れ取りも直さず國防上の機密が外間に暴露される譯であるから、國家の盛衰興亡に關する、中には漏洩した場合は直ちに變更の出來るものもあるが、事によつては絶対に變更の出來ないものがあるから、參謀本部としては最も嚴重なる方法によつて之れを保管せねばならぬ。故に

之れを保管する機密書類室も現代科學のエキスを盡した構造になつて、場所は最下の地下室になつて居る。

而も其の地下室も、周圍は全部厚さ一尺からの天然石で、其内側はコンクリート、其内側は耐火煉瓦、其内側は厚さ二十厘の鋼鐵板で、其鐵板は悉く防錆塗料が塗られてある。つまり周圍の壁や天井は石とコンクリートと煉瓦と鋼鐵の四重になつて居るのであるから、之れを破壊して忍び込むといふことは爆薬でも用ひない限り尋常の手段では絶対に不可能である。

入口の扉も同様石とコンクリートと煉瓦と鐵との四重扉になつて錠前は參謀本部で考案した特殊な錠前が使用され、而も其錠は電氣仕掛で機密書類係長官室にある開閉錠を押さなければ何んな事をしても開かないことになつて居る。そして其錠は取り外して係長官が退廳する時參謀總長に預けて歸らなければならぬ

ことになつて居る、參謀總長は其の錠を總長室内の鐵箱の中に收め、錠を下し、其錠は自邸に持ち歸ることになつて居るのであるから、外部から賊が忍び込んだにしても、總長室の鐵箱から錠を盗み出さない限り、扉を開けて中の書類を持出すことは出来ないのである。

日米商會日本支店監督たるエール博士の部下は、渡日以来、參謀本部内の機密書類室の位置構造等の一切を探知することに苦心して居たが、或日日米商會員となつて彼れの爲めに米探たるべく人格變換術を行はれて居る一日本人は、彼れの爲めに大利益にして日本の爲めには大不利利益たる報告を彼れに齎した。

其の報告は、報告を齎らした日本人事務員が、丸の内の大きな西洋料理店で夕食を喫しようとして二階に上ると、比較的客は少なく、他にバラ／＼五六人の客があつた。彼れは他の客より離れた窓際の食卓について一人バクついて居ると、間も

なく三人連れに日本人の客がやつて来て、彼れの食卓と一つ隔つた食卓を圍み、酒を飲み始めた、二人は會社員風の男であつたが、一人は新聞記者か嘗て新聞記者の經歷あるかと云つた風の男であつた。二人は飲み且つ食ひつゝ種々の世間話を始め、遂に日米問題に花が咲いた。すると新聞記者らしい男は得意になつて日米問題を論じ、二十年前の日米戦當時に於ける參謀本部の機密書類紛失事件に及び、其事あつて以來、參謀本部の機密書類室の警戒は一層嚴重となり、今日では斯ういふ風になつて居るから、何麼事があつても今後は紛失したり盗まれたりするとはあるまい、と云つて機密室の模様を詳細に語つた、他の二人は感心してそれを聞いて居た。

人格變換術を施されて米探化されて居る日米商會事務員は、始めは聞くとともに聞いて居たが、話が日米關係に移り、機密書類事件に轉するに従つて、耳を尖

らして悉くを聞いてしまつた。そこで彼れは匆々に勘定を済して飛出し、早速自動車飛ばして、日米商會東京支店に駆けつけ、更に轉じて神戸行の特別急行列車に乗り、神戸支店に居た監督に其話を報告した。監督は心中我事成れりと喜んだが、彼れは、軍人の話なら兎に角、普通人の話では餘り信するに足らぬと云つた風に軽く受け、日本人事務員に對しては、此の話を聞いた事及び自分に報告した事の一切は直ちに忘れて仕舞ふやうな暗示を與へ、ポケットマネーとして百圓の金を與へた。忘却暗示を與へられた件の日本人事務員は、監督の室を辭し去る時はモウ今迄の悉くを忘れてしまつて居た。

四六、日米商會監督の暗中活躍

米探化された一日本人事務員の報告によつて、參謀本部内機密書類室の構造の

大體を知つた日米商會監督米人は、我事成れりと心中雀躍し、其夜直ちに夜行列車に飛乗つて上京し、參謀本部に忍び込み、果して然るや否やを見届け、總長室内に在る鐵箱の中の釦を盗み出すことを目論んだ。

其れから一週間経たないうちに、彼れは警戒兵士の隙を見て參謀本部裏手の高塀を乗り越え、構内に忍び込んだ、そして小使部屋の窓から忍び込み、遂に總長室の扉の錠を捻ぢ開けた。總長室に這入つて見ると話の如くテーブルの横手の壁つきに大型金櫃程の眞黒な大鐵箱が据付けてあつた。彼れは鐵箱の錠に手をかけて見たが到底捻開けることは出来なかつた。

そこで彼れは懷中電燈で鐵箱の脚部を照らして見ると箱の脚に車のついて居ることが分つた。彼れは力まかせに箱の扉に兩手を懸けて一方へ押し見て見た、大きな鐵箱は少し其方へ動いた、彼れは再び力を籠めて同じ方向へ押しした、又少し鐵箱

は動いて、稍々斜めを向いた。斯うして彼れは鐵箱を殆んど左方に方向轉換を行はせ、鐵箱の背面を幅一尺長さ二尺程切り抜いて、中から釦を取り出した。

鐵箱から取り出した釦を持って機密書類係長官室に忍び込み、それをスイッチに嵌めて二三回押して見た。暫く息を殺して邊りの様子を窺つて見たが誰も來る氣配もしない。彼れは其處を出て段々地下室の方へ行つた、眞暗な石の階段を降りて最下の地下室へ行つて見ると大きな廊下がある、懷中電燈に照して見ると一方の突當りに大きな鐵の扉が見えて居る。彼れは近いて手をかけ右の方へ引いて見ると苦もなくスーツと音もせず開いた、次に煉瓦の扉が閉つて居る、それに手をかけて右に引いて見たが今度はビクともしない、左の方へ引いても、前に引いてもビクとも動かない、オヤと思つて邊りを電燈で照して見ると、右の方に小さな赤い釦がある、試みにそれを押して見ると、自動的にスーツと煉瓦の大扉

が開いた。次のコンクリートの扉も同じ方法で開いた、最後の石の扉も矢張り同様の方法で開いた。

斯くて機密書類室内に忍び込んだ彼は、大膽にも悠々と室内を彼方此方と迂路つき、遂に空中軍艦並に空中魚雷其他機密中の機密に属する書類を抜取り、それを襯衣の下に着込んだり、ポケットに捻込んだり、靴の中に履込んだりして室外に出で、入口の扉は元の通りに閉め、長官室に取つて返し、例のスイッチの釦を取外し、それを元の通り總長室の鐵箱の中へ入れ、切り抜いた鐵板を切り抜いた穴に嵌め込み、鐵箱を元の通りに直し、それから最初来た廊下を辿つて小使室の窓から飛び出し、警戒兵の隙を見て逸早く高塀を乗り越え、待たせて置いた自動車に乗るが否や、全速力で逃走した。

途中二三回密行警官の爲めに自動車を止められたが、車内には何人も乗

居なかつた、運轉手は主人を中央停車場に迎へに行くのだと云つて巧みに胡魔化した。乗つた彼れが、警官に臨検された時車内に居なかつたといふのは一寸不思議のやうであるが、實は彼れは車内に入ると直ちに腰掛けを引上げ、其下に隠れ、中から銃を下したのであつた。臨検した密行警官も、車内を覗いて見たが腰掛けに仕掛けがあらうとは思はなかつた。此時警官が此の自動車を警視廳に拉致し、嚴重に取調べを爲たら、彼れを捕縛し得たであらうが、普通一遍の訊問と臨検で放還し、空しく長蛇を逸したのは返すくも残念であつた。

四七、日米商會神戸支店の家宅搜索

深夜警戒嚴重なる參謀本部に忍び入り、巧みに機密書類を盗み取つた日米商會日本支店監督たるジョンソンは、之れを本國に送るには何ういふ方法手段を執る

べきかについて大いに考へた。

ジョンソン最初の計畫では、一通り各支店の巡視も終つたからと云ふ口實で急に自分が日本を出發することにしようと思ふのであつた。

ところが、機密書類を何う隠すか問題になつた、普通所持品同様にトランクの中に詰め込んだのでは、税関で直ちに發見される、襯衣の内側に着込んだり縫ひつけたりしても身體検査の際發見される懼れがある、と云つて他に匿す所はない。

そこで彼れはトランクを二重製のものとし、其間に巧みに挟み込み、外側から見たのでは絶対に然ういふ仕組みの爲てあることが分らないやうにした。叩いて見ても二重のやうな音のしないものを作り上げた。愈々トランクも出來上つた、盗み取つた一切の書類は其間に巧みに挟み込んでしまつた。愈々出發歸米の途に

つくと云ふ段取りまでなつた。ところが、此の計畫を抛棄しなければならぬ事件が起つて來た。

其の事件と云ふのは彼れに取つては實に頂門の一針とでも云ふべき手痛き事件で、即ち東京の或る有力なる新聞が、日米商會は日米の親善經濟的提携を期するを看板として居るが、實は日本の機密を探らんとする米探團であると云ふやうな意味の記事を、頗る挑發的に誇張的筆鋒を揮つて書き立てた事のものであつた。而して其の記事が朝刊の紙上に現はれた日に參謀本部で機密書類が紛失して居ることを發見し、嚴重なる警戒と捜査とが疾風迅雷的に開始せられたことであつた。神戸の警察からは直ちに日米商會を怪しみ、檢事局と共に力して日米商會の家宅搜索を斷行した。三日間に亘つて嚴格綿密なる搜索が行はれたが、米探らしい形跡もなく、機密書類の斷片だに發見することは出來なかつた。ジョンソン

が米國に持歸るべく拵へた二重製トランクは幾度も検査されたが、臨檢の檢事も警察官も、二重製であることには少しも氣がつかなかつた。

此の家宅搜索では、證據があがらなかつたので解放されたが、一旦其筋から睨まれた以上、大膽不敵のジョンソンと雖も迂濶な真似は出来ない、殊に海上方面では海軍と海上警察が蟻の這ひ出る隙間もなく警戒し、出入船舶は一々臨檢して居るのであるから、若し其臨檢に怪しまれたらトランクの如きも没收されて破壊されるかも知れない。縱令破壊されないにしても検査方法に何う云ふ方法があるか知れない。聞く所によれば、日本の税關では、禁制品の密輸入や密輸出を絶対に防止する爲めに、X光線を應用した検査器によつて怪しいと思はれる物品の透視検査を行ふといふことである。

東京の新聞で書き立てられ、神戸支店は既に家宅搜索までされて睨まれて居る

矢先、米人たる自分が歸米するとなれば、其は必然官憲に疑惑の念を起させるに相違ない、随つて所持品の検査も或は普通の検査では濟まさず、X光線應用の検査器によつて検査するかも知れない、然うなつたら今迄の苦心慘憺が一朝にして水泡に歸することにある、是れは迂かり歸米は出来ないと考へた。

其結果彼れは日本人事務員を遣らうかとも思つて見たが、日米商會員と云ふ肩書がある以上、官憲の睨む所には大した相違はない、日米商會員でないことにして派遣するには旅行免狀を得なければならぬ、旅券を得るには履歷について嚴密なる調査をされる、調査されるれば日米商會員たることは直ちに露顯する、日米商會員でありながら日米商會員でないことにして旅券を得ようとしたことが分れば一層其筋から睨まれることになり、蠶蛇の結果以外何物をも得る所はない。

愚圖々々して居るうちに一日二日と経ち、官憲の搜索と警戒は益々嚴重になり、ジョンソン如何に大膽不敵なればとて、如何に神算奇策を弄すればとて、到底機密書類を米國へ密送することは絶対に不可能となつた。

茲に於て、流石のジョンソンも計畫を變更し、機密書類を送らずして、其内容の機密を本國本店に知悉せしむべく、或る手段を執ることに決心した。

四八、米探ジョンソン上海活躍

日米商會東洋支店監督と云ふ肩書で渡日し、社員として採用する日本人をエー博士より秘傳された驚くべき人格變換法を以て米探化し、自分自から亦た盛んに暗中飛躍を試み、遂に參謀本部の機密書類室に忍び込み、空中軍艦空中魚雷其他機密中の機密に屬する重要書類を盗み出し、巧みに二重トランクに隠匿し、既

に神戸出帆の米國行汽船に乗り込まんとする際、東京一新聞の記事と機密書類盗難發覺と、官憲の活動、神戸支店の家宅搜索とによりて、晝餅に歸し、流石の大膽不敵漢たる米探の巨頭ジョンソンも、遂に方針を一變するの餘儀なき結果となつたことは既に述べた、そして彼れは新たな方法手段によつて米本國に其の内容を知悉せしめんとする計畫を樹てたことも既に縷述した所であるが、而かも彼れの新計畫たるや、米國式を遺憾なく發揮したものであつた。

彼れは歸米不可能となるや、其所有無線電信によりて内容を通信しようと思つて見たが、時既に遅く、政府より發するもの以外は、絶対に暗號通信を禁止せられた、のみならず、發信受信の電文は一々官憲の檢閲を経なければならぬのみでなく、政府より派遣された無線電信技師は各私設無線電信所に出張し、發信受信を嚴重に監視することになつたので、此の計畫も駄目になつてしまつた。

彼れは愈々現在の通信法以外の通信方法によらなければ、機密書類の内容を本國に通信することは到底不可能であることを知つた。

彼れは急遽旅装を整へ、二名の秘書を従へ、神戸發歐洲行汽船東洋丸に乗り上海に向つた。無論彼れは機密書類を匿したトランクは神戸支店樓上の監督室に遺したまゝで、携帶したトランクはホンの手廻り品のみを詰め込んだもので、日本の官憲に檢べられても嫌疑を受けるやうなもの一つも入れなかつた。二名の秘書の携帶品も同様何等怪しまるべきものではなかつた。彼等は容易に檢査が通つて東洋丸の一室に陣取つた。

彼れ米探の巨頭ジョンソンが、日本の地を去つて上海に向つたのは、決して日本の官憲に睨まれて居るから危険を免れる爲めと云ふのではなかつた。支那方面の支店を巡視するといふのが上海行の名目であつたが、それはホンの口實に過ぎ

なかつた。彼れが神戸を去つて上海に渡航する眞の目的は、機密通信の新方法新手段を發見せんが爲めであつた。日本に居つて其れを研究すれば、何うしても横濱なり神戸なり東京なりの支店で爲なければならぬが、支店で研究を進めるのは安全でない、何故かと云へば、日本の官憲はいつ何時突如に家宅搜索をするか知れない、然ういふ場合に研究材料から嫌疑が起るやうなことがあるれば、遂に一切の機密が暴露するに至るやも知れぬからであつた。

上海に着いた彼れは、直ちに米國租界の支店に入り、樓上の一室に陣取り、二名の秘書を相手に研究に取りかゝつた。

四九、上海支店樓上の秘密研究

ジョンソンが秘書として常に己れの身邊より放さぬ二人の米人は、ジョンソン